

# 学校マネジメント支援に関する調査研究

## 資料編

- 1 「学校の効率的かつ効果的な組織運営に関するアンケート調査」実施概要・p 1
- 2 学校の効率的かつ効果的な組織運営に関するアンケート調査(項目)・・・p 2
- 3 「学校の効率的かつ効果的な組織運営に関するアンケート調査」結果概要・p 7
- 4 主な項目の詳細分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p 13
- 5 記述回答で出された主な意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p 34
- 6 学校マネジメント支援に関する調査研究 経過概要・・・・・・・・・・・・p 38
- 7 学校マネジメント支援に関する調査研究会議委員名簿・・・・・・・・・・・・p 39
- 8 学校マネジメント支援に関する調査研究会議設置要綱・・・・・・・・・・・・p 40



# 「学校の効率的かつ効果的な組織運営に関するアンケート調査」実施概要

## 【1】実施日

平成21年9月7日～平成21年9月18日

## 【2】調査対象校

### 1 小・中学校 教育事務所別学校数

	全体	大河原	仙台	北部	栗原	東部	登米	南三陸
小学校	40	6	9	5	4	8	4	4
中学校	30	5	6	7	2	5	2	3

(注) アンケートの地域別集計は以下のように分類

大河原 → 南部地域	仙台 → 中部地域
北部・栗原 → 北部地域	東部・登米・南三陸 → 東部地域

### 2 県立学校 校種・課程別学校数

	全体	全普通	全専門	全総合	定時制	通信制	高校計	特支
県立学校	38	14	10	2	5	1	32	6

## 【3】回答者数

### 1 全体

	小中学校	高等学校	特別支援学校
対象者数	1339名	1373名	458名
有効回答者数	1216名	1280名	396名

### 2 主幹教諭, 教諭, 養護教諭, 栄養教諭, 実習助手, 寄宿舎指導員

校種	全体	男	女	～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳
小中学校	1006	425	581	102	247	432	225
小学校	655	248	407	53	143	285	174
中学校	351	177	174	49	104	147	51
高等学校	1215	902	313	92	358	455	310
普通	602	436	166	31	151	251	169
専門	511	393	118	57	180	158	116
定通	102	73	29	4	27	46	25
特別支援	379	166	213	12	102	177	88
総合計	2600	1493	1107	206	707	1064	623

### 3 校長, 副校長, 教頭, 事務職員 (小中学校)

校種	全体	男	女
小学校	133	97	36
中学校	77	59	18
高等学校	65	61	4
特別支援	17	14	3
総合計	292	231	61

## 学校の効率的かつ効果的な組織運営に関するアンケート調査

《対象：主幹教諭・教諭・養護教諭・栄養教諭・実習助手・寄宿舎指導員》

【Ⅰ】 次の1～7の項目それぞれについて、自分自身の考えに最も近いものを        の1～4の中から1つ選んで、それぞれの項目番号欄の数字をマークしてください。(全項目回答)

1：そう思う　2：どちらかといえばそう思う　3：どちらかといえばそう思わない　4：そう思わない

項目番号	内 容
1	現在の仕事にやり甲斐を感じている。
2	これまでの自分の経験や能力を生かしながら仕事をしている。
3	現在担当している仕事は順調に進んでいる。
4	教員としての力量をさらに高めるため、今後も研修を積みたい。
5	学校の他の職員と一緒に仕事をするのが楽しい。
6	困っているときは、学校の同僚に支えてもらっている。
7	これからの教員生活に希望を持っている。

【Ⅱ】 次の8～17の項目のうち、普段、特に強く感じている項目があれば3つ以内で選んで、その項目番号欄の1をマークしてください。(該当しない項目はマークの必要はありません。)

項目番号	内 容
8	児童・生徒との対応で悩むことが多い。
9	保護者との対応で悩むことが多い。
10	今後はこれまでの知識や経験だけでは教員としての職責を十分に果たしていけない。
11	現在の校務は自分にとって責任が重すぎる。
12	校務の種類や量が増えてきており、学校全体で校務の精選がなされていない。
13	職場内での人間関係に悩むことが多い。
14	仕事の手順や処理方法などを相談できる同僚がいない。
15	仕事が特定の職員に偏っている。
16	校務分掌内や学年会内での連携が十分に図られていない。
17	学校全体での指示伝達が明確でなく、校務の流れがスムーズではない。

【Ⅲ】 現在の学校全体の仕事を多忙と感じていますか。自分の気持ちに最も近いものを        の1～4の中から1つ選んで、項目番号18の欄の数字をマークしてください。

1：強く感じている　2：感じている　3：あまり感じていない　4：感じていない

【Ⅳ】 19～39の校務のうち、多忙感や負担感について、自分の気持ちに最も近いものを、次の        の1～4の中から1つ選んで、それぞれの項目番号欄の数字をマークしてください。

1：多忙の原因となっており、かなり負担感もある  
2：多忙の原因となっているが、あまり負担感がない  
3：多忙の原因となっていないが、かなり負担感がある  
4：多忙の原因となっていないし、あまり負担感もない

項目番号	内 容
19	教材研究などの教科指導の準備
20	試験問題の作成や採点・成績処理
21	校内の職員会議や打合せ
22	校務分掌に関わる業務で、職員会議や打合せ資料作成等の校内的業務

※次ページへ続く

23	校務分掌に関わる業務で、教育委員会等への報告書作成などの対外的業務
24	課外授業(講習)や模擬試験、検定試験の指導・監督
25	全体の児童・生徒に対する生活指導・相談
26	個別の児童・生徒に対する生活指導・相談
27	平日の部活動や課外活動
28	土日(週休日)の部活動や課外活動
29	学校行事や児童・生徒会行事の準備
30	学年や学級経営
31	集金や会計処理などの事務処理
32	対外的な各種調査や照会の回答
33	各種大会・コンクールなどへの参加
34	保護者への対応
35	地域や関係機関への対応
36	教科や校務分掌に関わる出張
37	部活動や課外活動に関わる出張
38	学校評価に関わる業務
39	職員評価に関わる業務

【V】 次の40～50の項目のうち、勤務時間外(平日・土日)に行うことが多い仕事内容はどのようなものですか。該当する項目があれば3つ以内で選んで、その項目番号欄の1をマークしてください。(該当しない項目はマークの必要はありません。)

項目番号	内 容
40	教材研究などの教科指導の準備
41	試験問題作成や採点・成績処理
42	児童・生徒の生活指導や相談
43	課外授業(講習)や模擬試験、検定試験の指導監督
44	部活動や課外活動の指導
45	校務分掌に関わる仕事(会議資料や報告書の作成など)
46	学年や学級経営に関わる仕事
47	会議や打合せ(職員会議、学年会議、分掌会議など)
48	学校行事や児童・生徒会行事の準備
49	保護者への対応
50	地域や関係機関への対応

【VI】 次の51～61の項目のうち、忙しくても、あまり負担感を持たないで仕事ができるときはどのような場合ですか。該当する項目があれば3つ以内で選んで、その項目番号欄の1をマークしてください。(該当しない項目はマークの必要はありません。)

項目番号	内 容
51	仕事にやり甲斐を感じている場合
52	自分の資質や力量の向上のために必要であると思われる業務の場合
53	一つの仕事を複数の職員で協働して処理する場合
54	一つの仕事を一人で処理する場合
55	周囲の職員の理解や協力が得られる場合
56	管理職が仕事の困難性などの状況を理解してくれる場合
57	児童・生徒のためならと思える仕事の場合
58	仕事の手順や処理の手法が理解できている仕事の場合
59	重要な仕事を任された場合
60	仕事の遂行において、主任や部長などから適宜明確な指示が得られる場合
61	自分の専門性が活かせる仕事内容である場合

【Ⅶ】 次の62～77の項目は、ここ数年間、改善に取り組んできた項目です。それぞれについて、自分の考えに最も近いものを、の1～4の中から1つ選んで、それぞれの項目番号欄の数字をマークしてください。(全項目回答)

1：かなり改善された 2：少し改善された 3：あまり改善されていない 4：全く改善されていない

項目番号	内 容
62	学校行事の精選
63	校務分掌や各種委員会などの再編や見直し
64	会議・打合せ時間の短縮や回数減
65	組織における各個人の役割や責任分担の明確化
66	情報の電子化の促進や教材や資料・データ等の共有化及び事務作業の効率化
67	仕事の進め方や悩みを気軽に相談できる職場の雰囲気づくり
68	教科や分掌に関わる出張の精選
69	部活動の練習試合や大会、課外活動に関わる出張等の精選
70	週1回以上の部活動単位の休養日設定
71	週休日において、月1回以上の部活動単位の休養日の設定
72	職員の役割分担の均等化や適正化
73	会計処理などの事務処理軽減(専門職で処理し、教員は児童生徒の教育活動に専念)
74	教員の資質や能力の向上をめざした校内・校外研修の充実
75	教育委員会や他の行政機関による照会や調査の内容の精選
76	対応が困難な地域・保護者からの要望等に対応する学校の組織体制づくり
77	教職員に対するメンタルヘルス対応

【Ⅷ】 次の78～89の職員評価に関する項目について、自分自身の考えに最も近いものを  の1～4の中から1つ選んで、それぞれの項目番号欄の数字をマークしてください。(全項目回答)

1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う 3：どちらかといえばそう思わない 4：そう思わない

項目番号	内 容
78	1年間を見通して、重点的に取り組みたいことを自己目標に設定している。
79	学校の教育目標や運営方針などを考慮して自己目標を設定している。
80	目標設定や評価の際の面談は、校長と直接意見交換ができる場として有意義である。
81	面接の時間は十分確保されている。
82	設定した自己目標を意識して日常の教育活動を行っている。
83	学校の組織力を高める上で、設定した自己目標を校務分掌内や職員間で共有した方が有効である。
84	児童・生徒や保護者、他の職員などの意見を参考にして自己評価を行っている。
85	評価の観点や標準的な行動例を参考にして自己評価を行っている。
86	職員評価の自己目標の設定や評価の取組が、学校全体の目標達成に生かされている。
87	職員評価の結果を次年度の自分の教育活動に生かしている。
88	評価の観点や標準的な行動例に示された項目は、自分自身の更なる資質向上の指標となっている。
89	本県の職員評価の仕組みは、自分自身の意識や資質向上に対して有効である。

※ご協力ありがとうございました。

《対象：校長・副校長・教頭・事務職員》※【Ⅰ】【Ⅲ】【Ⅴ】【Ⅵ】に対応する質問項目はありません。

【Ⅱ】 次の1～10の項目のうち、あなたの学校の教員の多くが、普段、特に強く感じていると思われる項目があれば3つ以内で選んで、その項目番号の1をマークしてください。(該当しない項目はマークの必要はありません。)

項目番号	内 容
1	児童・生徒との対応で悩むことが多い。
2	保護者との対応で悩むことが多い。
3	今後はこれまでの知識や経験だけでは教員としての職責を十分に果たしていけない。
4	現在の仕事は自分にとって責任が重すぎる。
5	仕事の種類や量が増えてきており、学校全体で業務の精選がなされていない。
6	職場内での人間関係に悩むことが多い。
7	仕事の手順や処理方法などを相談できる同僚がいない。
8	仕事が特定の職員に偏っている。
9	校務分掌内や学年会内での連携が十分に図られていない。
10	学校全体での指示伝達が明確でなく、校務の流れがスムーズではない。

【Ⅳ】 次の11～31の校務のうち、教員の多忙感や負担感についてあなた自身が思っていることを、  
                    の1～4の中から1つ選んでそれぞれの項目番号欄の数字をマークしてください。

- 1：自校の教員について、多忙の原因となっており、かなり負担感もある  
 2：自校の教員について、多忙の原因となっているが、あまり負担感がない  
 3：自校の教員について、多忙の原因となっていないが、かなり負担感がある  
 4：自校の教員について、多忙の原因となっていないし、あまり負担感もない

項目番号	内 容
11	教材研究などの教科指導の準備
12	試験問題の作成や採点・成績処理
13	校内の職員会議や打合せ
14	校務分掌に関わる業務で、職員会議や打合せ資料作成等の校内的業務
15	校務分掌に関わる業務で、教育委員会等への報告書作成などの対外的業務
16	課外授業(講習)や模擬試験、検定試験
17	全体の児童・生徒に対する生活指導・相談
18	個別の児童・生徒に対する生活指導・相談
19	平日の部活動や課外活動
20	土日(週休日)の部活動や課外活動
21	学校行事や児童・生徒会行事の準備
22	学年や学級経営
23	集金や会計処理などの事務処理
24	対外的な各種調査や照会の回答
25	各種大会・コンクールなどへの参加
26	保護者への対応
27	地域や関係機関への対応
28	教科や校務分掌に関わる出張
29	部活動や課外活動に関わる出張
30	学校評価に関わる業務
31	職員評価に関わる業務

【Ⅶ】 次の32～47の項目は、ここ数年間、改善に取り組んできた項目です。それぞれについて、自分の考えに最も近いものを の1から4の中から1つ選んで、それぞれの項目番号欄の数字をマークしてください。(全項目回答)

1：かなり改善された 2：少し改善された 3：あまり改善されていない 4：全く改善されていない

項目番号	内 容
32	学校行事の精選
33	校務分掌や各種委員会などの再編や見直し
34	会議・打合せ時間の短縮や回数減
35	組織における各個人の役割や責任分担の明確化
36	情報の電子化の促進や教材や資料・データ等の共有化及び事務作業の効率化
37	仕事の進め方や悩みを気軽に相談できる職場の雰囲気づくり
38	教科や分掌に関わる出張の精選
39	部活動の練習試合や大会、課外活動に関わる出張等の精選
40	週1回以上の部活動単位の休養日設定
41	週休日において、月1回以上の部活動単位の休養日の設定
42	職員の役割分担の均等化や適正化
43	会計処理などの事務処理軽減(専門職で処理し、教員は児童生徒の教育活動に専念)
44	教員の資質や能力の向上をめざした校内・校外研修の充実
45	教育委員会や他の行政機関による照会や調査の内容の精選
46	対応が困難な地域・保護者からの要望等に対応する学校の組織体制づくり
47	教職員に対するメンタルヘルス対応

【Ⅷ】 次の48～58の職員評価に関する項目について、自分自身の考えに最も近いものを の1～4の中から1つ選んで、それぞれの項目番号欄の数字をマークしてください。(全項目回答)

1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う 3：どちらかといえばそう思わない 4：そう思わない

項目番号	内 容
48	学校経営方針や重点目標は職員に理解されている。
49	目標設定の評価の際の面談は、職員と直接意見交換ができる場として有意義である。
50	面接の時間は十分確保されている。
51	職員は、設定した自己目標を意識して日常の教育活動を行っている。
52	学校の組織力を高める上で、設定した自己目標を校務分掌内や職員間で共有した方が有効である。
53	職員は、児童・生徒や保護者、他の職員などの意見を参考にして自己評価を行っている。
54	職員は、評価の観点や標準的な行動例を参考にして自己評価を行っている。
55	職員評価の自己目標の設定や評価の取組が、学校全体の目標達成に生かされている。
56	職員は、職員評価の結果を次年度の自分の教育活動に生かしている。
57	評価の観点や標準的な行動例に示された項目は、職員の更なる資質向上の指標となっている。
58	本県の職員評価の仕組みは、自分自身の意識や資質向上に対して有効である。



## 「学校の効率的かつ効果的な組織運営に関するアンケート調査」結果概要

### 〈主幹教諭，教諭，養護教諭，栄養教諭，実習助手，寄宿舎指導員〉

#### 【Ⅰ】教員の仕事に対する満足感等に関する項目

○項目1～6については、ほとんどの校種で、8割から9割超が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的、積極的な回答を示している。特に、項目4「教員としての力量をさらに高めるため、今後も研修を積みたい」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」としている者が、小学校94.3%，中学校92.8%，高校87.1%，特支94.4%と非常に高い割合になっている。

○項目7「教員生活に希望を持っている」について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」とした者が、小学校42.6%，中学校37.6%，高校48.5%，特支41.4%と他の項目に比べて、否定的(悲観的)な回答をしている者が多い。男女差はあまり見られないが、年齢が上がるにつれてその割合が高くなっている。

※項目7 校種ごと年代別回答者数(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計)

	～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳
小中学校	18.7%	38.0%	42.4%	51.2%
高等学校	28.2%	43.9%	51.6%	55.3%
特別支援	25.0%	35.0%	43.2%	47.6%

#### 【Ⅱ】仕事の上で、普段特に感じていることに関する項目

○全ての校種で共通して20%を超えている項目は以下の3項目である。

項目10「今後はこれまでの知識や経験だけでは職責を十分果たしていけない」

(小:35.3% 中:27.9% 高:21.5% 特:24.8%)

項目12「校務の種類や量が増えてきており、学校全体で校務の精選がなされていない」

(小:37.6% 中:34.5% 高:50.2% 特:37.7%)

項目15「仕事が特定の職員に偏っている」

(小:20.3% 中:29.9% 高:47.7% 特:40.4%)

○その他の項目で比較的多くあげられた項目は、項目8「児童・生徒の対応で悩むことが多い」が、小学校24.0%，中学校21.1%，高校20.0%，項目9「保護者との対応で悩むことが多い。」が小学校27.8%，中学校23.1%，項目17「学校全体での指示伝達が明確でなく校務の流れがスムーズでない」が特支で20.3%となっている。

○学校業務の精選や特定の職員への偏りについて、主任等とそれ以外の教員に分けて見ると、全体的に主任等の方が10ポイント前後高くなっている。

※項目12, 15における主任等とその他の教員の比較

項目	役職等	小学校	中学校	高等学校	特別支援
校務の精選がなされていない	主任等	41.0%	39.5%	55.8%	40.0%
	その他	29.3%	28.6%	46.1%	36.5%
仕事が特定の職員に偏っている	主任等	22.7%	29.5%	52.7%	51.9%
	その他	14.4%	30.4%	44.0%	34.0%

#### 【Ⅲ】全体的な多忙感に関する項目

○多忙を「強く感じている」「感じている」を合わせた割合は、小学校90.2%，中学校84.7%，高校82.8%，特支81.3%と各校種で8割を超えているが、年代や性別、主任等の役職の有無では特に大きな差異は見られない。小中学校では学校規模別の差異はあまり見られないが、高校では全日が定通を20ポイントほど上回っている。

- 多忙を「強く感じている」と回答した者は、小学校51.9%、中学校36.8%、高校38.6%、特支35.2%となっている。
- 【I】の項目7「教員生活に希望を持っている」について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」とした者のうち、多忙を「強く感じている」「感じている」と回答した者が、小学校95.6%、中学校93.4%、高校79.8%、特支77.3%となっている。

#### 【IV】特に負担感がある項目、あまり負担感がない項目

- 「多忙の原因であり負担感も感じる」と回答した者が多いそれぞれの校種の上位5項目をあげると以下のようにになっている。

[全校種で共通している項目]

- ・項目32「対外的な各種調査や照会の回答」

(小:47.2% 中:43.9% 高:33.7% 特:27.8%)

[3校種で共通している項目]

- ・項目23「校務分掌に関わる業務で、教育委員会等への報告書作成などの対外的業務」

(小:38.5% 中:37.0% 高:31.6%)

- ・項目31「集金や会計処理などの事務処理」

(小:43.2% 中:38.5% 高:29.6%)

[2校種で共通している項目]

- ・項目22「校務分掌に関わる業務で、職員会議や打合せ資料作成等の校内的業務」

(高:30.7% 特:35.2%)

- ・項目33「各種大会・コンクールなどへの参加」(小:40.0% 中:34.2%)

- ・項目28「土日の部活動や課外活動」(中:48.4% 高:35.4%)

- ・項目39「職員評価に関わる業務」(小:34.5% 特:27.9%)

[特別支援学校のみでの項目]

- ・項目21「校内の職員会議や打合せ」(37.0%)

- ・項目29「学校行事や児童・生徒会行事の準備」(28.4%)

- 40代・50代では、「資料作成等の校内業務」「報告書作成等の対外的業務」が20代・30代に比べて多忙感・負担感を持っている。
- 高校では全日制の普通高校と専門高校では大きな差異は見られないが、全日と定通では特に部活動関係の項目で大きな違いが見られる。
- 項目22、項目23、項目32で主任等とそれ以外の教員に分けて見ていると、それぞれ主任等が「多忙・負担感がある」と回答した者が10ポイント前後高くなっている。

#### ※項目22, 23, 32における主任等とその他の教員の比較

項目	役職等	小学校	中学校	高等学校	特別支援
資料作成等の校内業務	主任等	34.5%	30.0%	33.6%	37.8%
	その他	26.6%	21.1%	27.8%	32.8%
報告書作成等の対外的業務	主任等	38.4%	41.6%	35.9%	24.4%
	その他	37.8%	31.7%	27.0%	22.5%
対外的な各種調査・照会の回答	主任等	49.4%	51.1%	37.5%	31.9%
	その他	42.0%	35.4%	29.6%	23.8%

#### 【V】勤務時間外(平日・土日)の仕事に関する項目

- それぞれの校種の上位3項目をあげると以下のようにになっている。

[全校種で共通している項目]

- ・項目40「教材研究などの教科指導の準備」

(小：70.8% 中：47.3% 高：46.4% 特：66.0%)

[中学校と高校に共通している項目]

- ・項目41「試験問題の作成や採点・成績処理」(中：55.3% 高：47.5%)
- ・項目44「部活動や課外活動の指導」(中：73.8% 高：62.6%)

[小学校と特別支援学校に共通している項目]

- ・項目45「校務分掌に関わる仕事」(小：56.8% 特：47.2%)
- ・項目46「学年や学級経営に関わる仕事」(小：47.8% 特：34.8%)

○各校種別に年代や性別で比較しても、上位3項目はほとんど変わらない。

#### 【VI】忙しい中でも、比較的負担感を持たないで仕事ができる場合に関する項目

○回答が多かった上位4項目は全校種に共通しており、以下のようになっている。

- ・項目51「仕事にやりがいを感じているとき」  
(小：61.5% 中：59.5% 高：61.2% 特：64.1%)
- ・項目55「周囲の職員の理解や協力が得られる場合」  
(小：43.4% 中：45.6% 高：37.4% 特：43.5%)
- ・項目57「児童・生徒のためならと思える仕事の場合」  
(小：44.9% 中：48.4% 高：39.5% 特：40.6%)
- ・項目61「自分の専門性が活かされる仕事内容である場合」  
(小：28.2% 中：32.8% 高：34.8% 特：33.8%)

○各校種別に年代や性別で比較しても、上位4項目はほとんど変わらない。

#### 【VII】学校業務の精選・効率化や多忙・負担感を解消する方策に関する項目

○「かなり改善した」「少し改善した」と回答した者が半数を超えるのは、全16項目のうち小学校で7項目、中学校で10項目、高校で3項目、特別支援学校で4項目で、全体的に、小中学校で改善が進んでいると回答した項目が多い。半数を超えるのは以下の項目である。

[全校種で共通している項目]

- ・項目66「情報の電子化の促進や教材や資料・データの共有化及び事務作業の効率化」  
(小：70.9% 中：65.9% 高：74.3% 特：71.7%)

[3校種で共通している項目]

- ・項目62「学校行事の精選」(小：66.8% 中：53.8% 特57.2%)
- ・項目68「教科や分掌の出張精選」(小：61.4% 中：58.9% 特：58.0%)
- ・項目74「研修の充実」(小 61.5% 中：53.8% 特：63.2%)
- ・項目71「週休日の部活休養日設定」(中：50.1% 高：50.1% 特50.4%)

[2校種で共通している項目]

- ・項目64「会議等の短縮・回数減」(小：59.3% 中：51.0%)
- ・項目67「職場の雰囲気作り」(小：64.8% 中：61.2%)
- ・項目76「保護者等からの要望等に対する体制作り」(小：60.9% 中：50.4%)
- ・項目70「週1回以上の部活休養日の設定」(中：53.6% 高：53.5%)

[中学校のみの項目]

- ・項目63「校務分掌等の再編や見直し」(53.8%)

○「全く改善されていない」が20%を超える項目は以下のようになっている

[全校種で共通している項目]

- ・項目73「会計処理などの事務処理軽減」  
(小：25.8% 中：25.9% 高：31.6% 特：26.3%)

[その他の項目]

- ・項目64「会議・打合せ時間の短縮や回数減」(高：24.1%)

- ・項目 69「部活動の練習試合や大会，課外活動に関わる出張等の精選」(高：20.4%)
  - ・項目 70「週1回以上の部活休養日の設定」(中：21.4%)
  - ・項目 72「職員の役割分担の均等化や適正化」(高：32.3% 特：21.3%)
  - ・項目 75「行政機関からの照会や調査の内容精選」(中23.9% 高：26.1%)
- 全体的な傾向は，年代や性別では大きな差異は見られないが，高校では，定通では全ての項目で「かなり改善された」が全日制を上回っている。

#### 【Ⅶ】職員評価に関する項目

○自己目標設定の方法や意識についての項目では，以下のように「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答をした者の割合が多い。

- ・項目 78「1年間を見通して，重点的に取り組みたいことを自己目標に設定」  
(小：88.7% 中：88.8% 高：88.1% 特：87.9%)
- ・項目 79「学校の教育目標や運営方針などを考慮して自己目標を設定」  
(小：74.2% 中：68.4% 高：74.0% 特：68.8%)
- ・項目 80「目標設定や評価の際の面談は，校長と直接意見交換できる場として有意義」  
(小：63.2% 中：65.0% 高：63.4% 特：59.4%)
- ・項目 81「面談の時間は十分確保」  
(小：66.1% 中：65.8% 高：74.2% 特：62.4%)
- ・項目 82「設定した自己目標を意識した日常の教育活動」  
(小：76.2% 中：70.4% 高：80.7% 特：78.5%)

○自己評価の方法や活用についての項目では，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答をした者は，

- ・項目 85「評価の観点や標準的な行動例を参考にしている」  
(小：72.5% 中：67.2% 高：68.6% 特：72.2%)
- ・項目 87「職員評価の結果を次年度の教育活動に生かしている」  
(小：71.5% 中：74.4% 高：75.4% 特：66.1%)

の2項目で高かったものの，

- ・項目 84「児童・生徒や保護者，他の教員の意見を参考にしている」  
(小：38.2% 中：43.5% 高：52.4% 特：44.8%)

と回答した者の割合が低くなっている。

○職員評価制度と教職員の資質向上や学校の教育活動との関わりについての項目では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答の割合は以下のようになっている。

- ・項目 83「学校の組織力向上には，自己目標を校務分掌内や職員間で共有した方が有効」  
(小：47.8% 中：45.9% 高：55.8% 特：39.0%)
- ・項目 86「自己評価の取組が学校全体の目標達成に生かされている」  
(小：39.7% 中：39.1% 高：41.1% 特：31.2%)
- ・項目 88「評価の観点や標準的な行動例は自分自身の資質向上の指針となっている」  
(小：56.1% 中：56.7% 高：54.4% 特：45.7%)
- ・項目 89「職員評価の仕組みは自分自身の意識や資質向上に有効である」  
(小：34.8% 中：35.6% 高：34.6% 特：28.8%)

#### 〈校長，副校長，教頭，事務職員(小中学校)〉

#### 【Ⅱ】仕事の上で，普段特に感じていることに関する項目

○自校の教員が普段特に強く感じていると思われる項目で，回答が多かった上位項目は小中学校と県立学校ではほぼ共通しており，以下のようになっている。これは管理職以外の回答

の上位とほぼ同じになっている。

- ・項目1「児童生徒との対応で悩むことが多い」  
(小: 30.8% 中: 23.4% 高: 41.5% 特: 41.2%)
- ・項目2「保護者との対応で悩むことが多い」  
(小: 47.4% 中: 35.1% 高: 26.2% 特: 47.1%)
- ・項目3「これまでの経験では職責を果たせない」  
(小: 27.1% 中: 24.7% 高: 29.2% 特: 52.9%)
- ・項目5「学校全体で業務精選がなされていない」  
(小: 60.9% 中: 63.6% 高: 60.0% 特: 41.2%)
- ・項目8「仕事が特定の職員に偏っている」  
(小: 20.3% 中: 35.1% 高: 64.6% 特: 41.2%)

#### 【IV】特に負担感がある項目、あまり負担感がない項目

○「自校の教員について、多忙の原因であり負担感もある」と回答した者が多いそれぞれの校種の上位5項目を校種ごとにあげ、管理職以外と比較すると以下ようになる。管理職以外の教員との回答の差異は、小中学校、高校ではほとんど見られないが、特支でやや大きい。

(小学校)

順	項目(管理職)	率	項目(管理職以外)	率
1	対外的な各種調査や照会	43.6%	対外的な各種調査や照会	47.2%
2	集金や会計処理等の事務処理	42.1%	集金や会計処理等の事務処理	43.2%
3	報告書作成などの対外的業務	42.1%	大会・コンクールなどへの参加	40.0%
4	学校、児童・生徒会行事の準備	41.4%	報告書作成などの対外的業務	38.5%
5	大会・コンクールなどへの参加	41.4%	職員評価に係わる業務	34.5%

(中学校)

順	項目(管理職)	率	項目(管理職以外)	率
1	土日の部活動や課外活動	58.4%	土日の部活動や課外活動	48.4%
2	対外的な各種調査や照会	42.9%	対外的な各種調査や照会	43.9%
3	平日の部活動や課外活動	42.9%	集金や会計処理等の事務処理	38.5%
4	報告書作成などの対外的業務	41.6%	報告書作成などの対外的業務	37.0%
5	各種大会・コンクール等への参加	40.3%	各種大会・コンクール等への参加	34.2%

(高等学校)

順	項目(管理職)	率	項目(管理職以外)	率
1	報告書作成などの対外的業務	56.9%	土日の部活動や課外活動	35.4%
2	個別の児童生徒に対する生活指導	47.7%	対外的な各種調査や照会	33.7%
3	土日の部活動や課外活動	47.7%	報告書作成などの対外的業務	31.6%
4	対外的な各種調査や照会	43.1%	資料作成等の校内的業務	30.7%
5	課外授業や模擬試験、検定試験	32.8%	集金や会計処理等の事務処理	29.6%

(特別支援学校)

順	項目(管理職)	率	項目(管理職以外)	率
1	学校行事等の準備	52.9%	校内の職員会議や打合せ	37.0%
2	個別の児童生徒に対する生活指導	50.0%	資料作成等の校内的業務	35.2%
3	報告書作成などの対外的業務	47.1%	学校行事等の準備	28.4%
4	保護者への対応	41.2%	職員評価に係わる業務	27.9%
5	教材研究などの教課指導の準備	37.5%	対外的な各種調査や照会	27.8%

**【VII】 学校業務の精選・効率化や多忙・負担感を解消する方策に関する項目**

○「かなり改善した」「少し改善した」と回答した者が半数を超えるのは、全16項目のうち小学校で10項目（管理職以外8項目）、中学校で13項目（同9項目）、高校で13項目（同3項目）、特別支援学校で13項目（同5項目）で、全体的には改善が進んでいるとしている回答が多い。また、特に高校と特支では管理職以外との意識の差が大きい。

○「全く改善されていない」が20%を超える項目を校種ごとに見ると以下のようになっている。

（小学校）

- ・項目45「行政機関からの照会や調査の内容精選」（管理職30.1% 他19.7%）

（中学校）

- ・項目39「部活動・課外活動に関わる出張等の精選」（管理職35.1% 他19.7%）
- ・項目45「行政機関からの照会や調査の内容精選」（管理職32.5% 他23.9%）

（高等学校）

- ・項目38「教科や分掌に関わる出張等の精選」（管理職23.4% 他12.9%）
- ・項目45「行政機関からの照会や調査の内容精選」（管理職25.4% 他26.1%）

（特別支援学校）

- ・項目38「教科や分掌に関わる出張等の精選」（管理職21.4% 他7.7%）
- ・項目45「行政機関からの照会や調査の内容精選」（管理職20.0% 他17.1%）

**【VIII】 職員評価に関する項目**

○ほとんど全ての項目で、全校種で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答が多い。管理職以外で比較的肯定的な回答が低かった項目と類似する次の項目について校種ごとに管理職と比較したものが以下の表である。いずれも、ほとんどの項目で管理職の肯定的な割合が高くなっている。特に項目52、55、58は管理職以外の割合と大きな差異がある。

〈自己評価の方法に関する項目〉

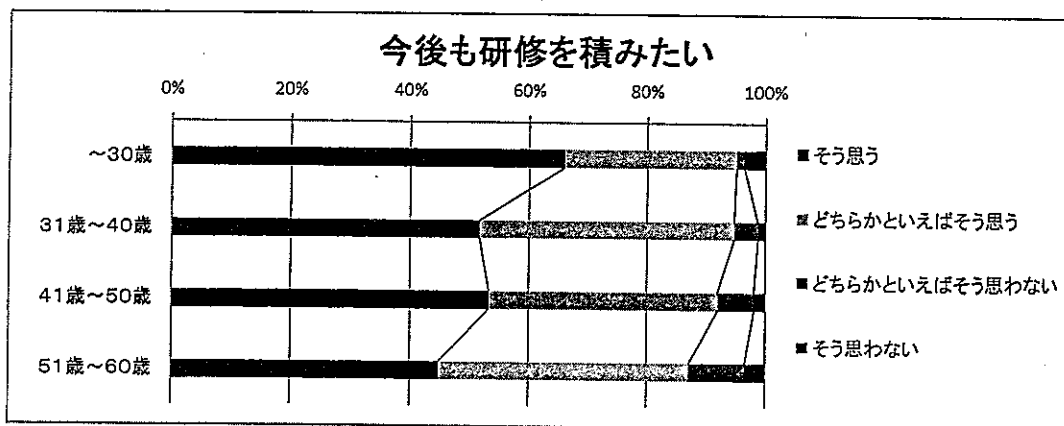
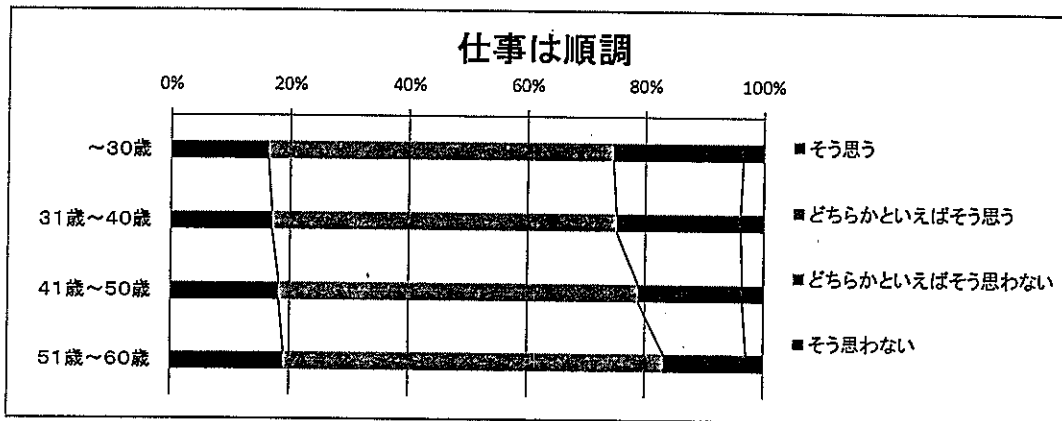
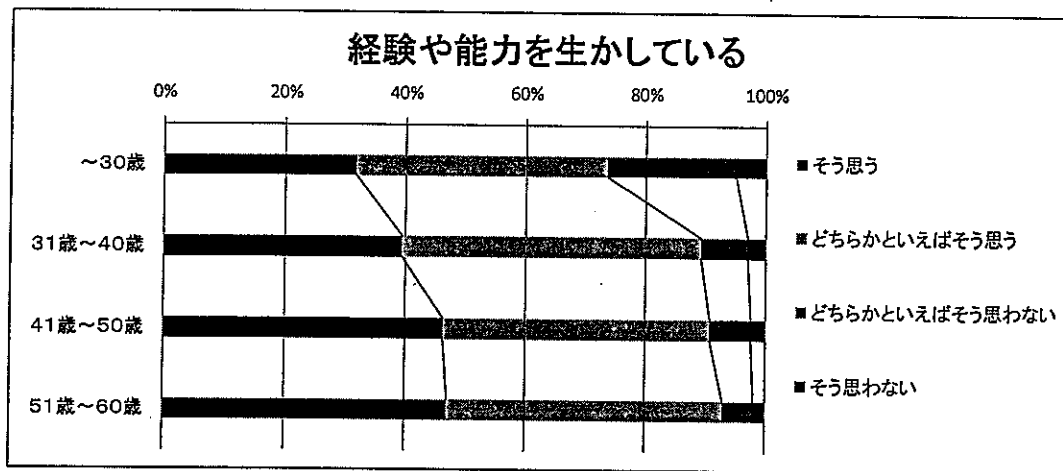
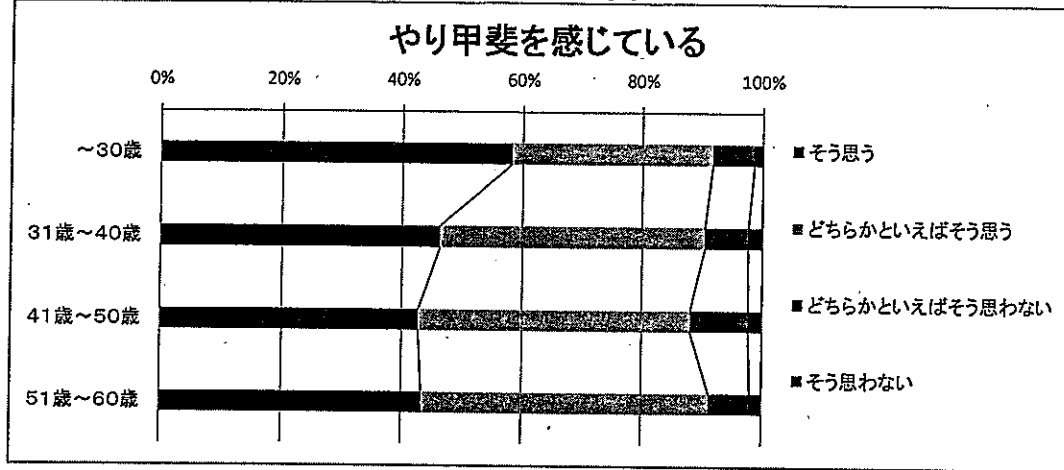
- ・項目53「児童・生徒や保護者、他の教員の意見を参考にして自己評価を行っている」

〈職員評価制度と教職員の資質向上や学校の教育活動との関わりについての項目〉

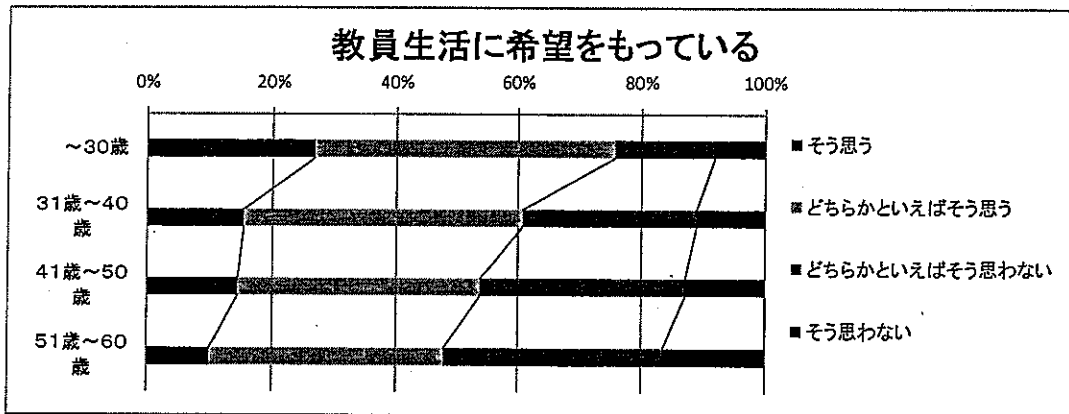
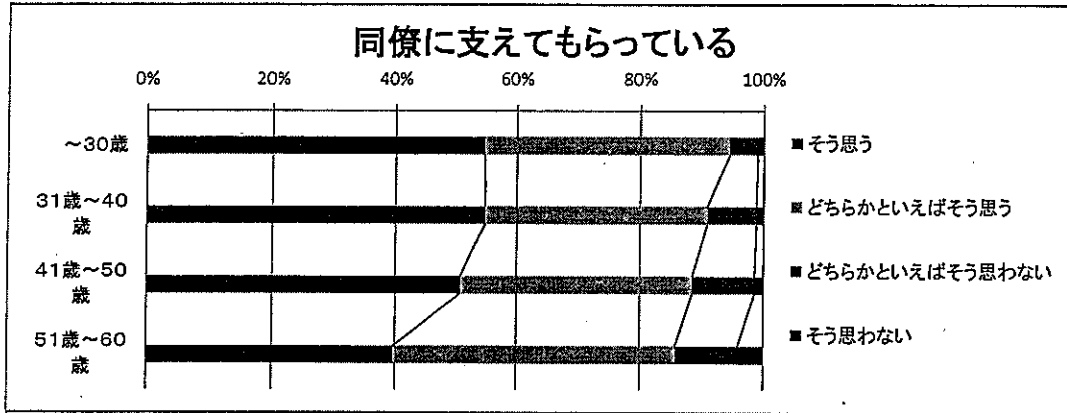
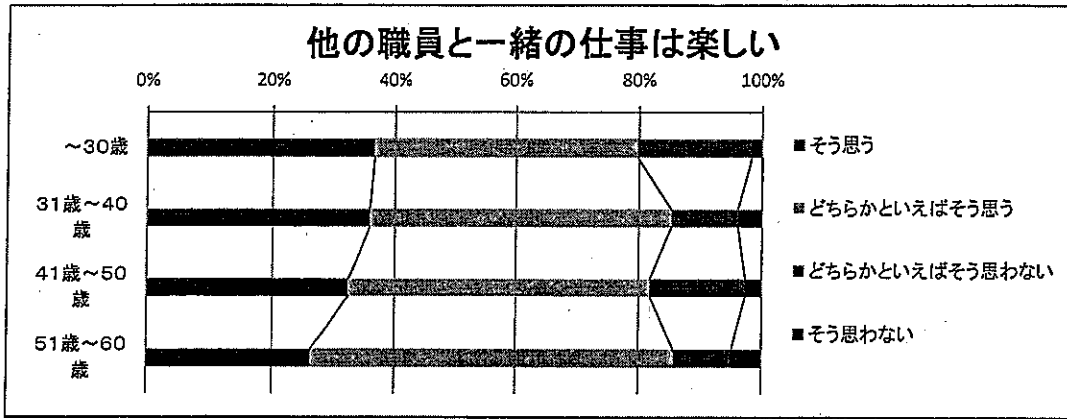
- ・項目52「学校の組織力向上には、自己目標を校務分掌内や職員間で共有した方が有効」
- ・項目55「自己評価の取組が学校全体の目標達成に生かされている」
- ・項目57「評価の観点や標準的な行動例は職員の資質向上の指針となっている」
- ・項目58「職員評価の仕組みは自分自身の意識や資質向上に有効である」

項目	役職等	小学校	中学校	高等学校	特別支援
項目53	管理職	49.7%	53.3%	47.6%	26.7%
	その他	38.2%	43.5%	52.4%	44.8%
項目52	管理職	67.7%	52.0%	73.5%	56.3%
	その他	47.8%	45.9%	55.8%	39.0%
項目55	管理職	60.1%	61.0%	65.6%	68.8%
	その他	39.7%	39.1%	41.1%	31.2%
項目57	管理職	61.6%	63.7%	67.7%	87.5%
	その他	56.1%	56.7%	54.4%	45.7%
項目58	管理職	59.4%	66.2%	82.5%	75.0%
	その他	34.8%	35.6%	34.6%	28.8%

# I 教員の仕事に対する満足感に関する項目



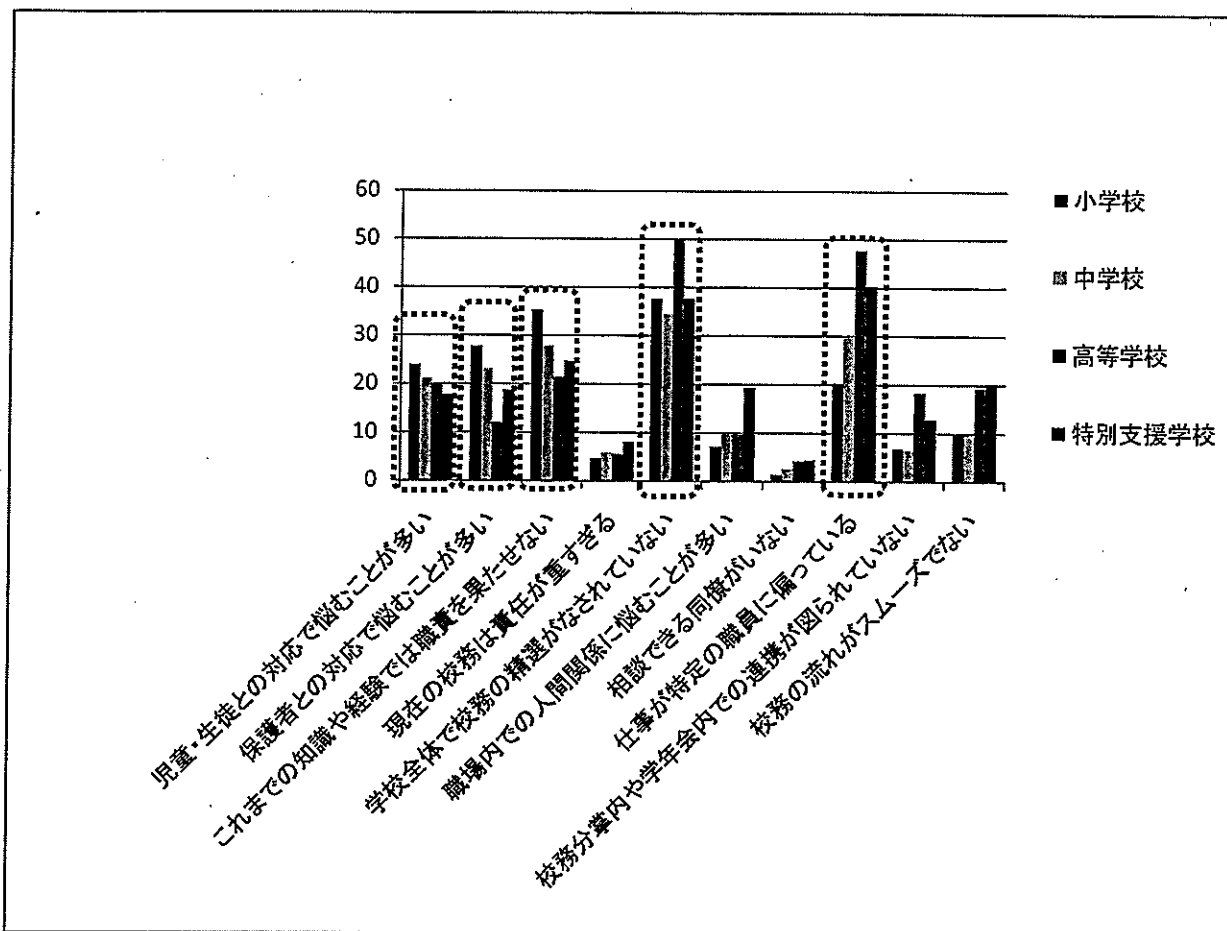
# I 教員の仕事に対する満足感に関する項目



○仕事のやり甲斐や同僚との良好な関係に関する項目について「そう思う」という割合が年代が上がるとともに低下する傾向がある。  
 ○特に教員生活に希望を持っている割合は年代が高くなるほど低下している。



## Ⅱ 普段、特に強く感じている項目

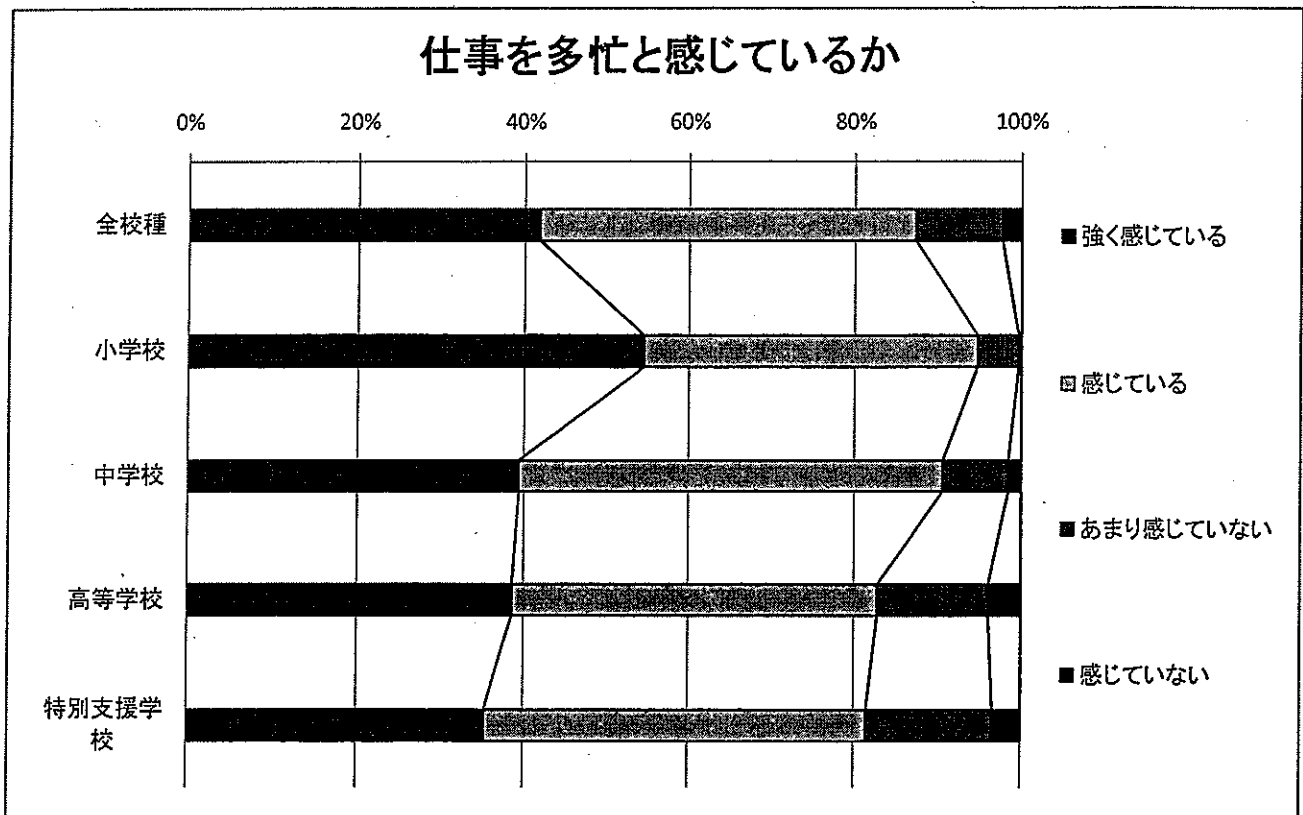


○高等学校、特別支援学校では他の学校種と比べて「学校全体で校務の精選がなされていない」と「仕事が特定の職員に偏っている」という回答が特に多い。

○中学校では上記2項目のほか「これまでの知識や経験では職責を果たせない」という回答が多くなっている。

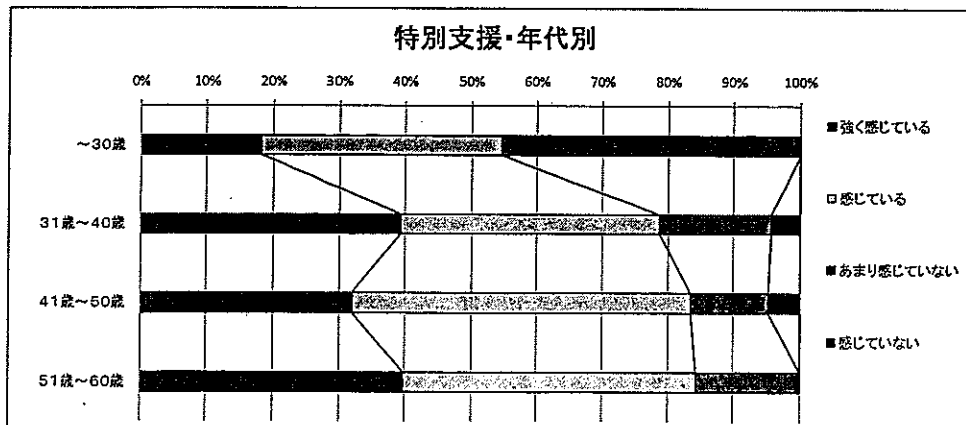
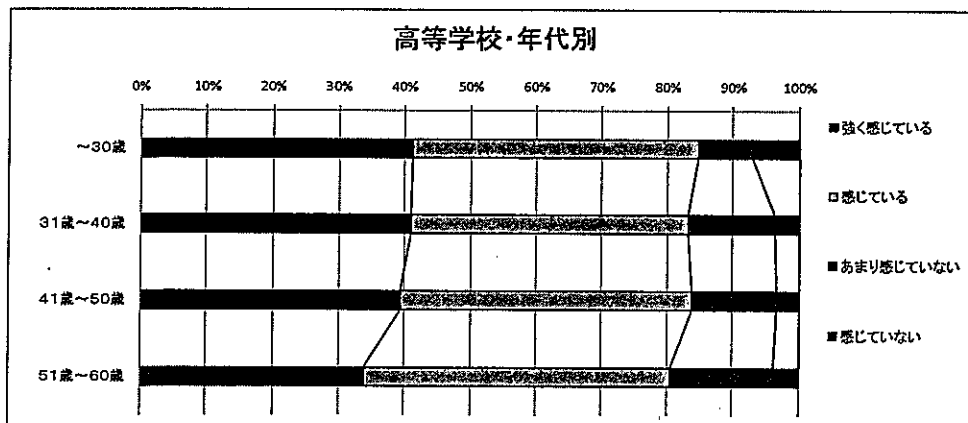
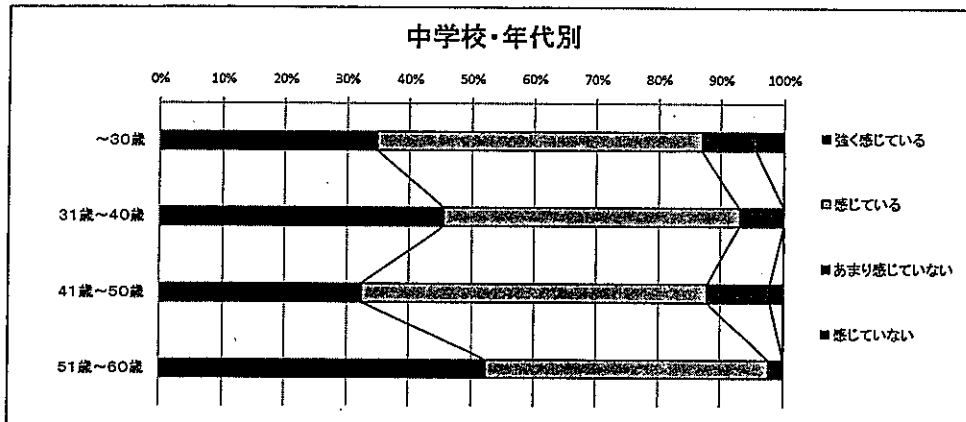
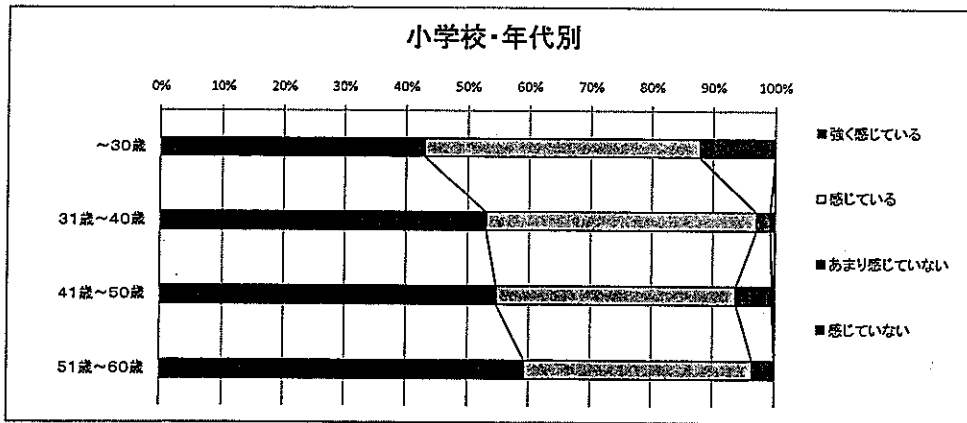
○小学校では「校務の精選」「これまでの知識・・・」に次いで「保護者との対応」「児童・生徒との対応」が続いている。

### Ⅲ 全体の多忙感に関する項目



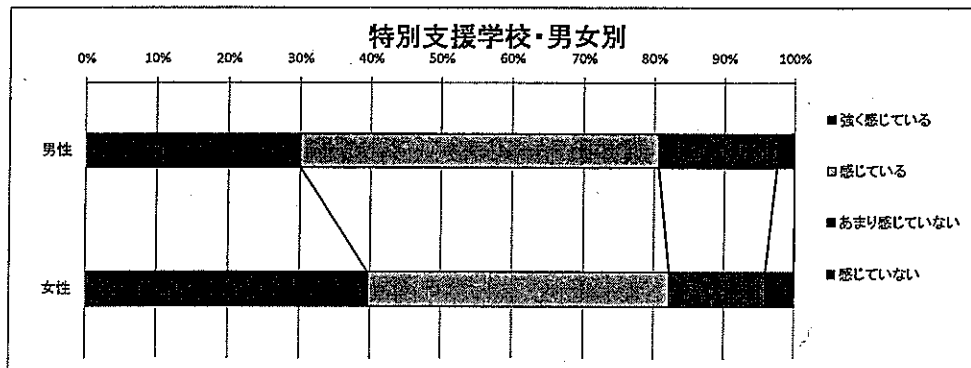
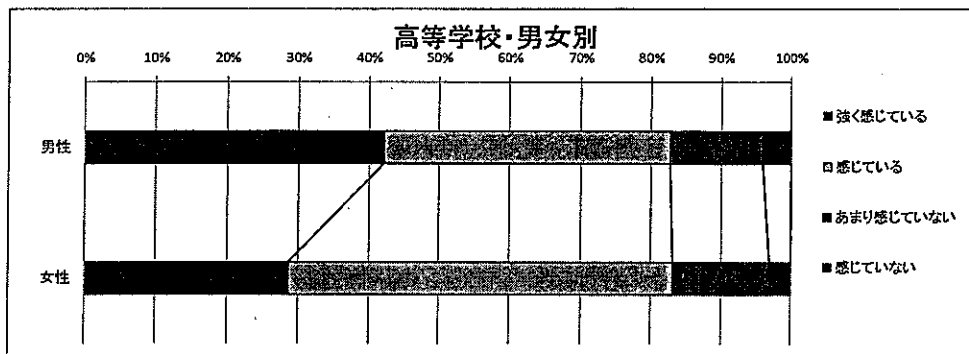
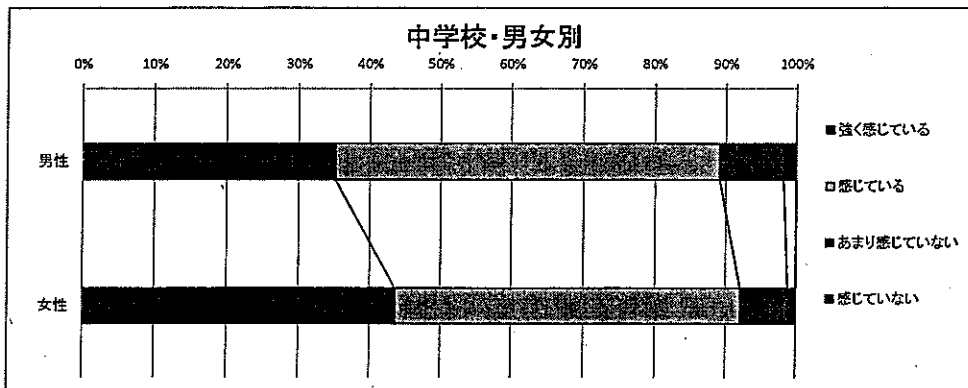
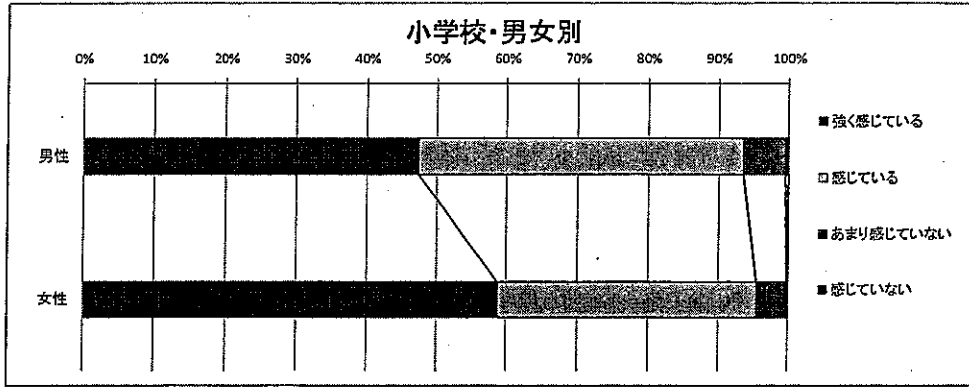
○すべての学校種で、多くの教員が仕事を多忙と感じている。  
 ○特に小学校の教員が多忙を強く感じている。

### Ⅲ 全体的な多忙感に関する項目



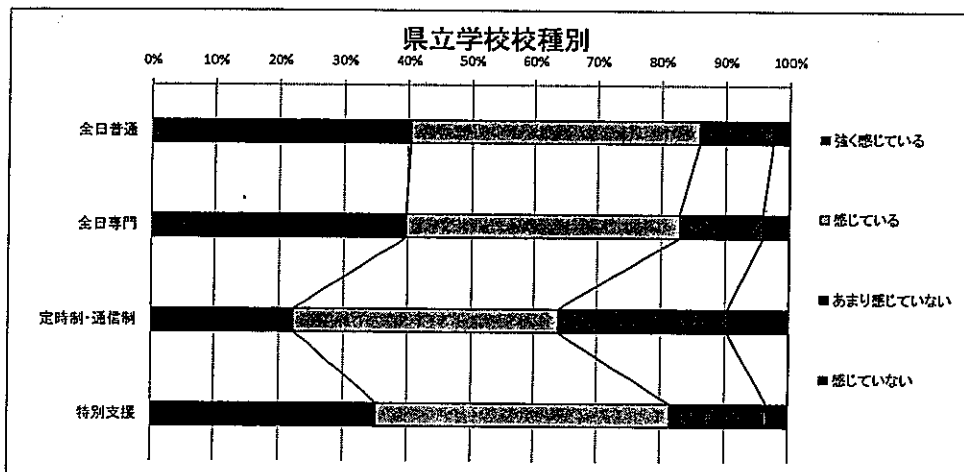
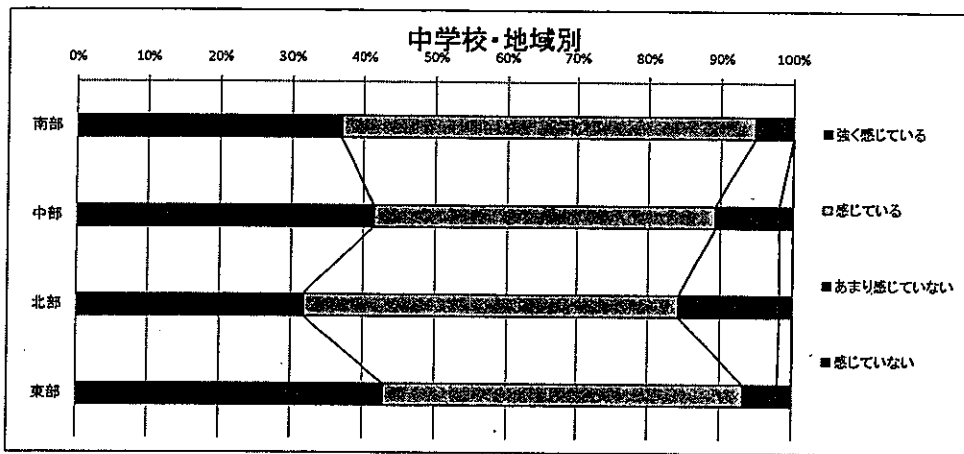
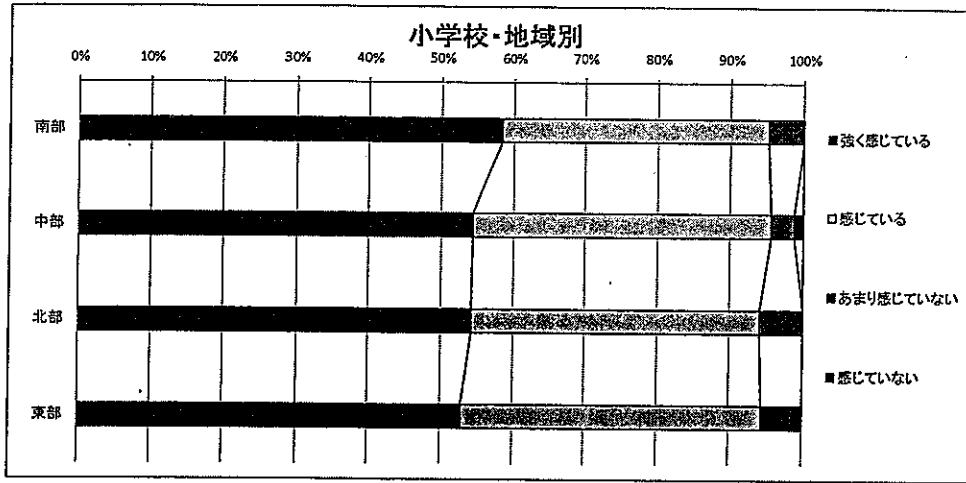
○多忙と感じる割合は小学校が最も高く、また年代が上がるにつれて増加している。  
 ○中学校と特別支援学校では41~50歳で多忙と感じる割合が下がっている。高等学校では年代による変化は少ない。

### Ⅲ 全体的な多忙感に関する項目



○高等学校を除いて女性の方がより多忙を感じている。  
 ○小学校の割合が高くなっており、特に小学校の女性の回答が高い。

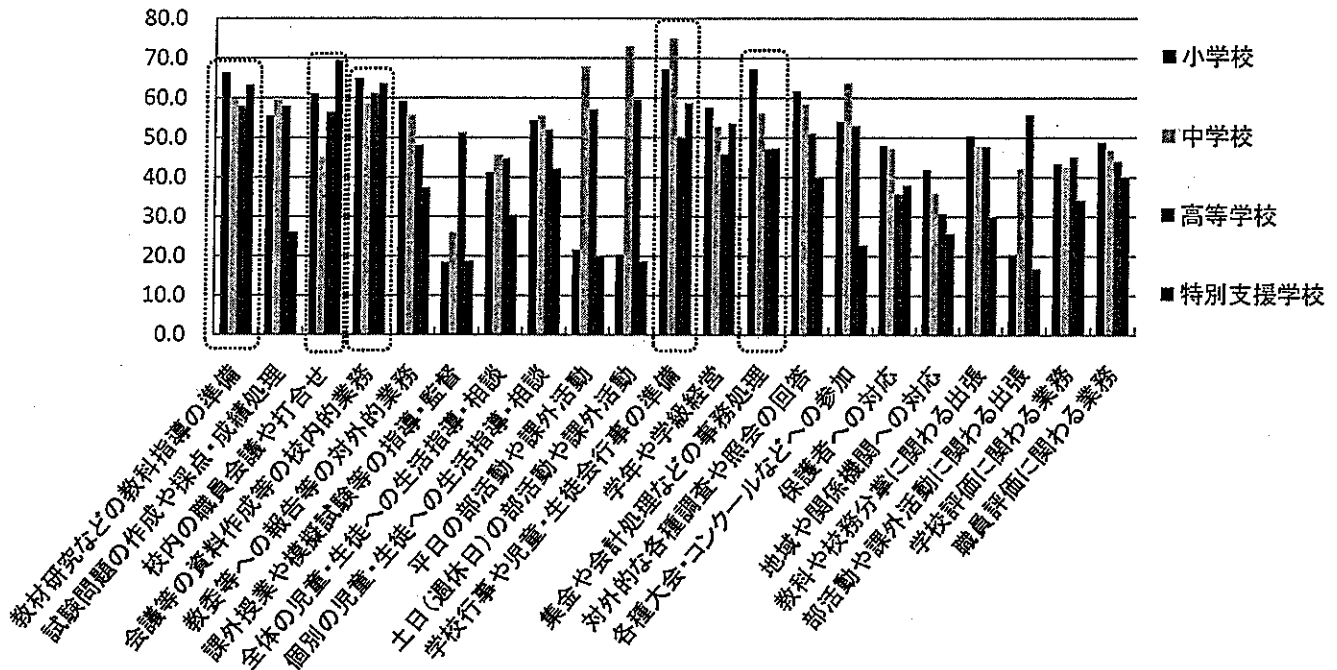
### Ⅲ 全体的な多忙感に関する項目



- 小学校では地域別での大きな差は見られない。
- 中学校では地域により感じ方に差があり、北部で多忙という回答が他地域と比べて少ない。
- 県立学校では定時制・通信制で多忙という回答が少なくなっている。

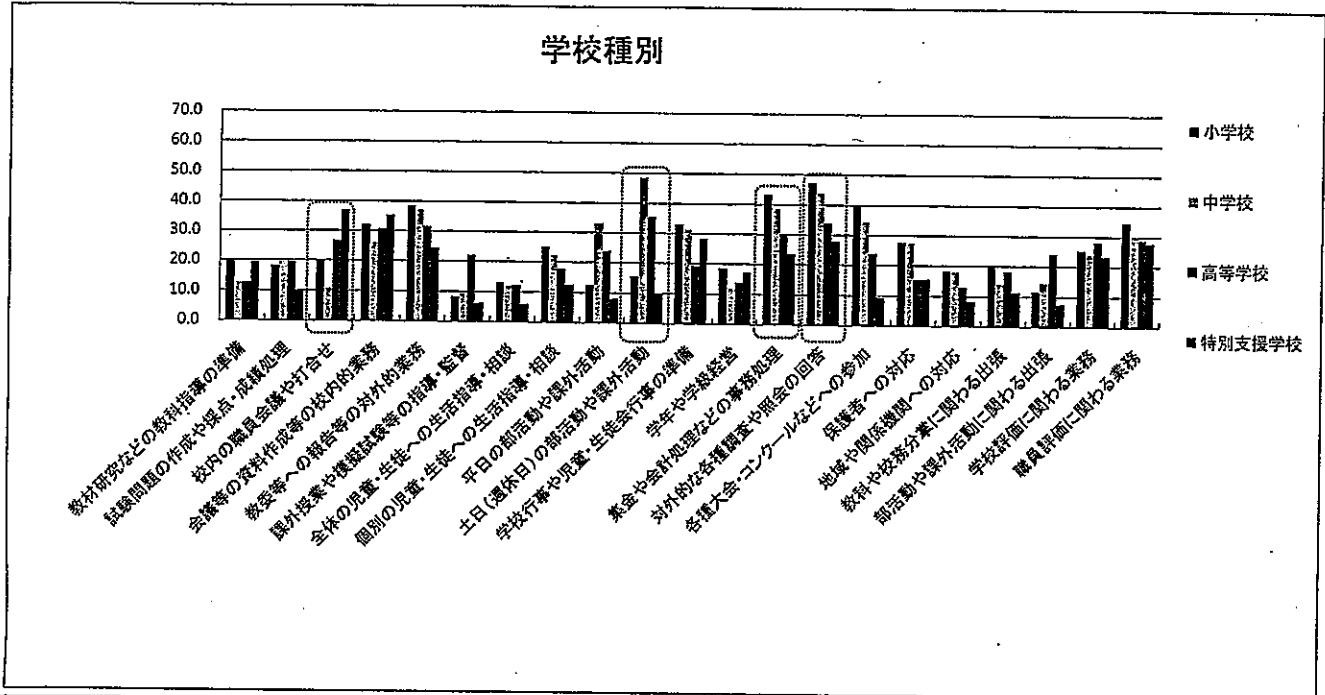
#### IV 多忙の原因となっている業務（負担感の有無にかかわらず）

### 学校種別



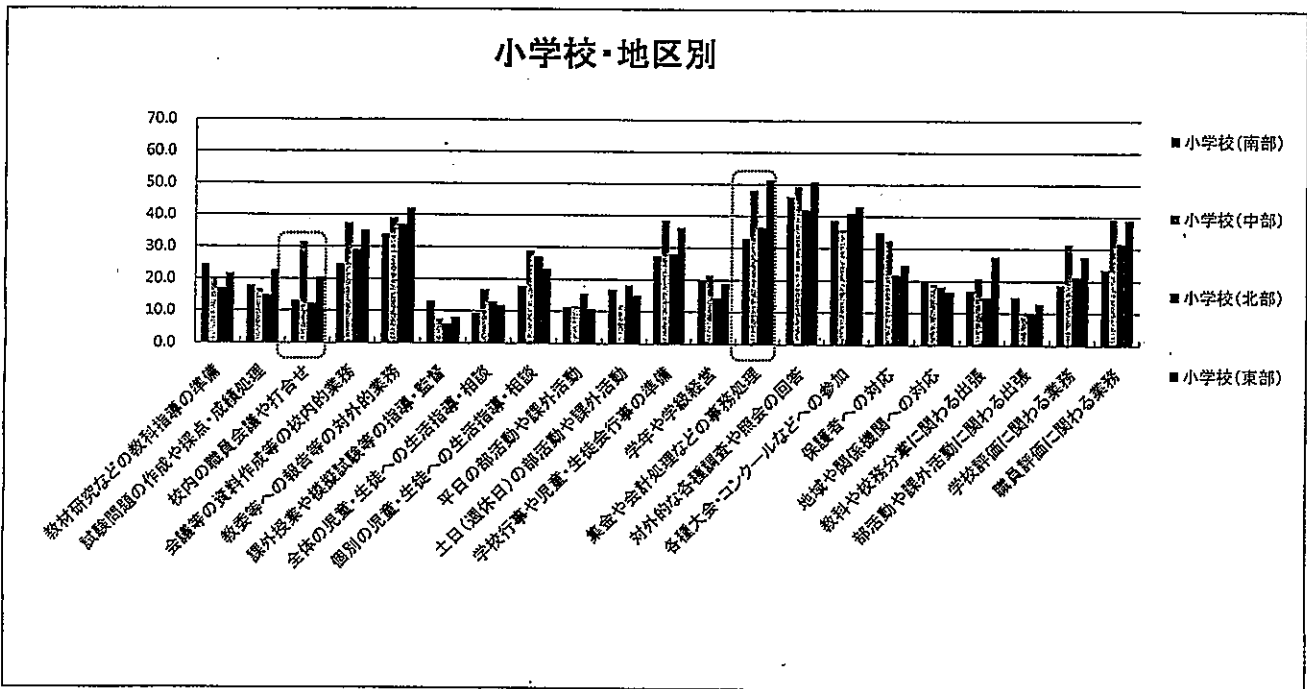
- どの校種においても「教材研究などの教科指導の準備」と「職員会議や打合せ資料作成等の校内業務」が多い。
- 小中学校では「学校行事や児童・生徒会行事の準備」という回答が多い。
- 小学校では次いで「集金などの事務処理」が多い。
- 中学校・高等学校では部活動業務の回答が多い。
- 「校内の職員会議や打合せ」については、他校種と比較して中学校が少ない。

#### IV 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



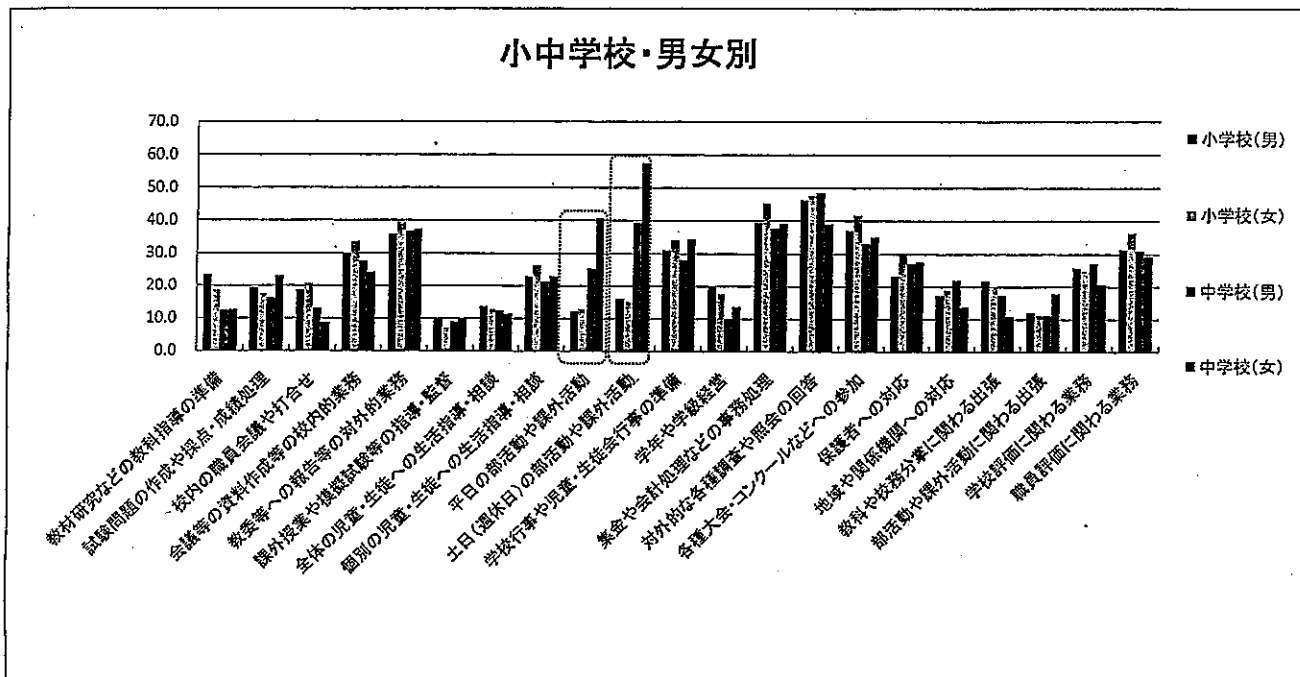
○小学校は「対外的な各種調査や照会の回答」、中学校・高校は「土日(週休日)の部活動や課外活動」、特別支援学校は「校内の職員会議や打合せ」の割合がそれぞれ最も高い。  
 ○他に、「集金や会計処理等の事務処理」の割合も高い。

#### IV 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



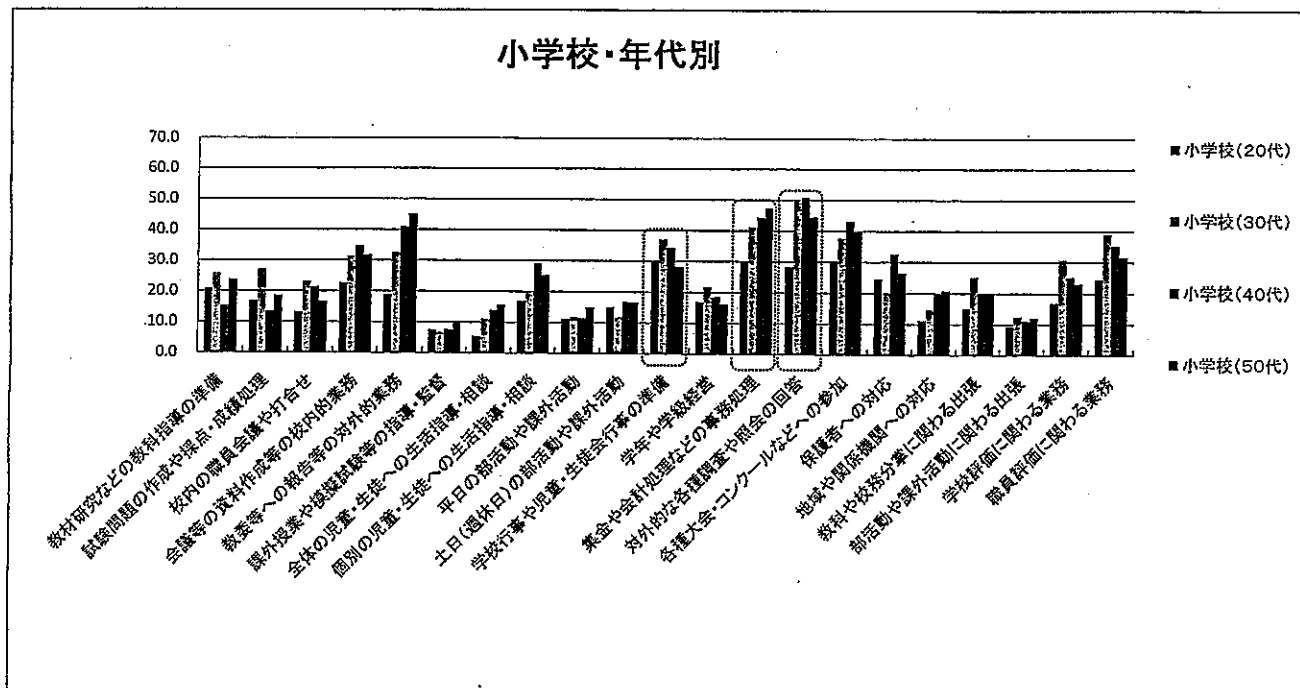
○「集金や会計処理等の事務処理」については東部が最も大きな割合を示しているが、地区間に大きな差がある。  
 ○「校内の職員会議や打合せ」について中部の割合が他地域と比べて高い。

#### Ⅳ 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



○小学校は、すべての業務において大きな男女差は見られない。  
 ○中学校は「部活動や課外活動」において大きな男女差が見られる。(女性がより多忙、負担感を感じている。)

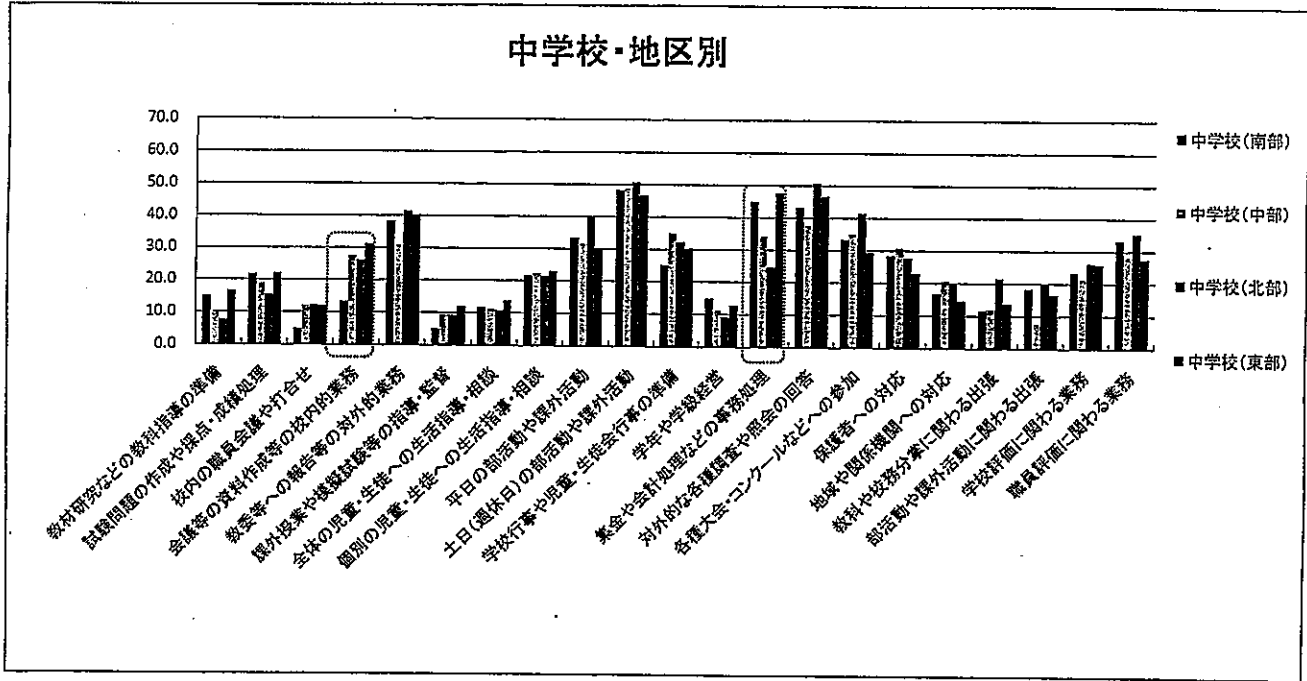
#### Ⅳ 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



○30代、40代は「対外的な各種調査や照会の回答」の割合が高く、20代との差も大きい。  
 ○50代は「集金や会計処理等の事務処理」の割合が高く、20代との差も大きい。  
 ○20代は「学校行事や児童・生徒会行事の準備」「集金や会計処理等の事務処理」の割合が最も高い。

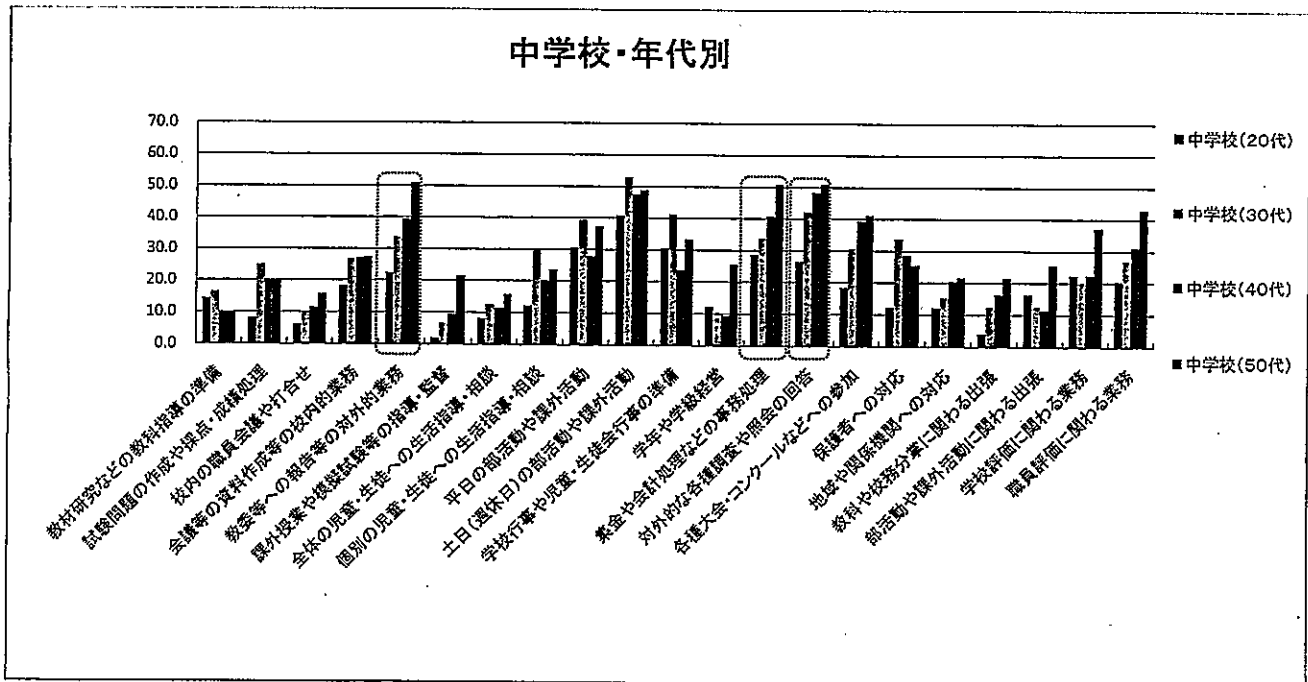


#### Ⅳ 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



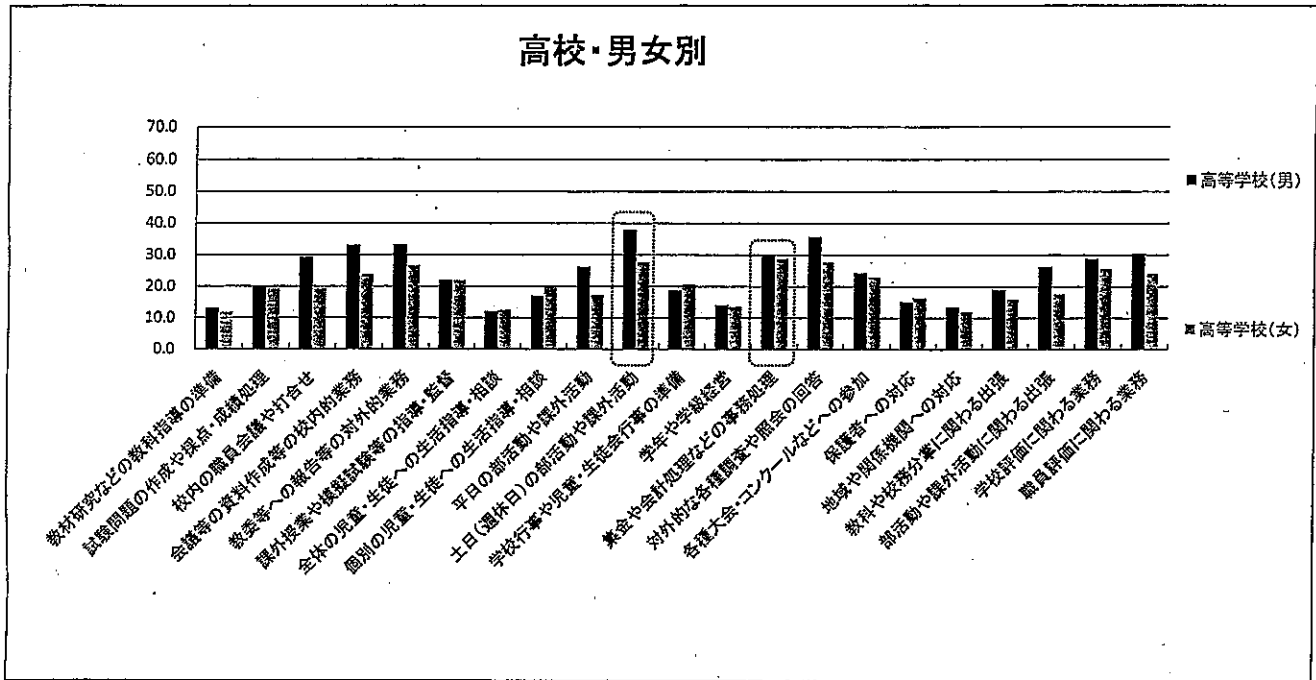
○地区間の大きな差は見られないが、「集金や会計処理等の事務処理」「職員会議や打合せ資料作成等の校内的業務」の地区間の差が大きい。

#### Ⅳ 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



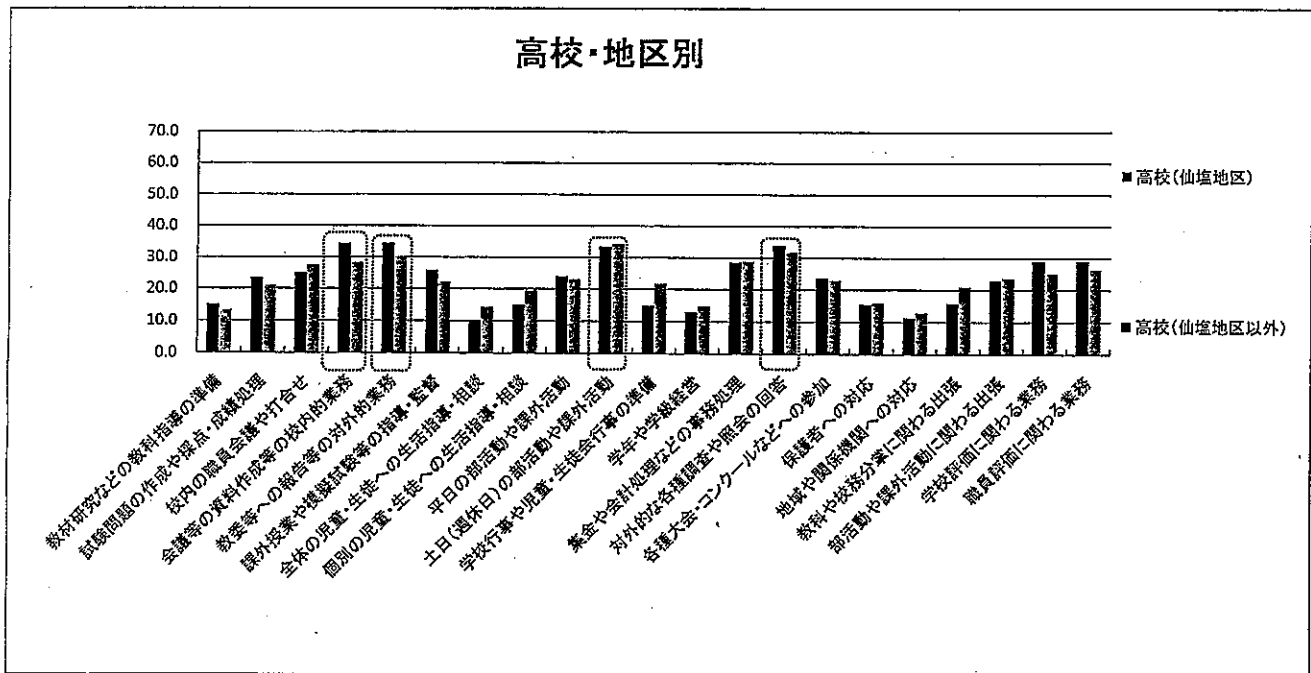
○50代は「教育委員会への報告書作成等の対外的業務」「集金や会計処理等の事務処理」「対外的な各種調査や照会の回答」など多くの業務で最も大きな割合となっており、一方でこれらの項目について20代の回答は比較的低い。

#### Ⅳ 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



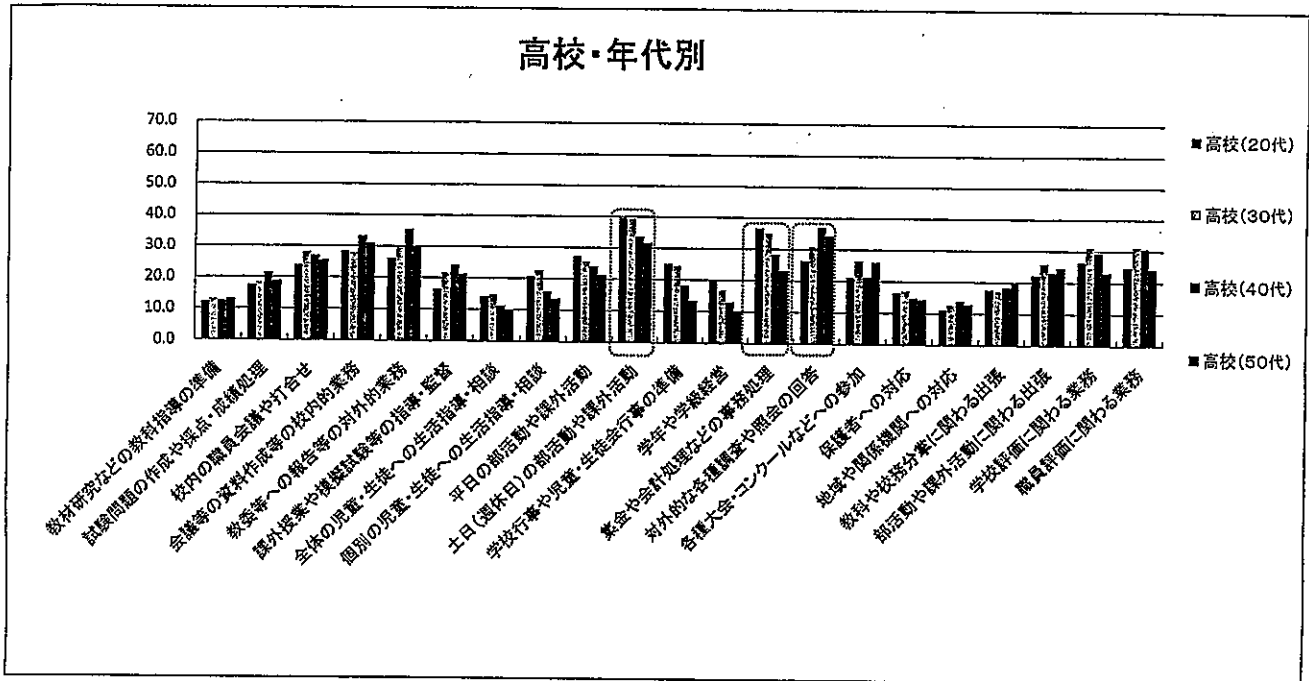
○男性は「土日(週休日)の部活動や課外活動」、女性は「集金や会計処理等の事務処理」の割合が最も大きい。  
 ○全体的に男性が負担感を強く感じている。

#### Ⅳ 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



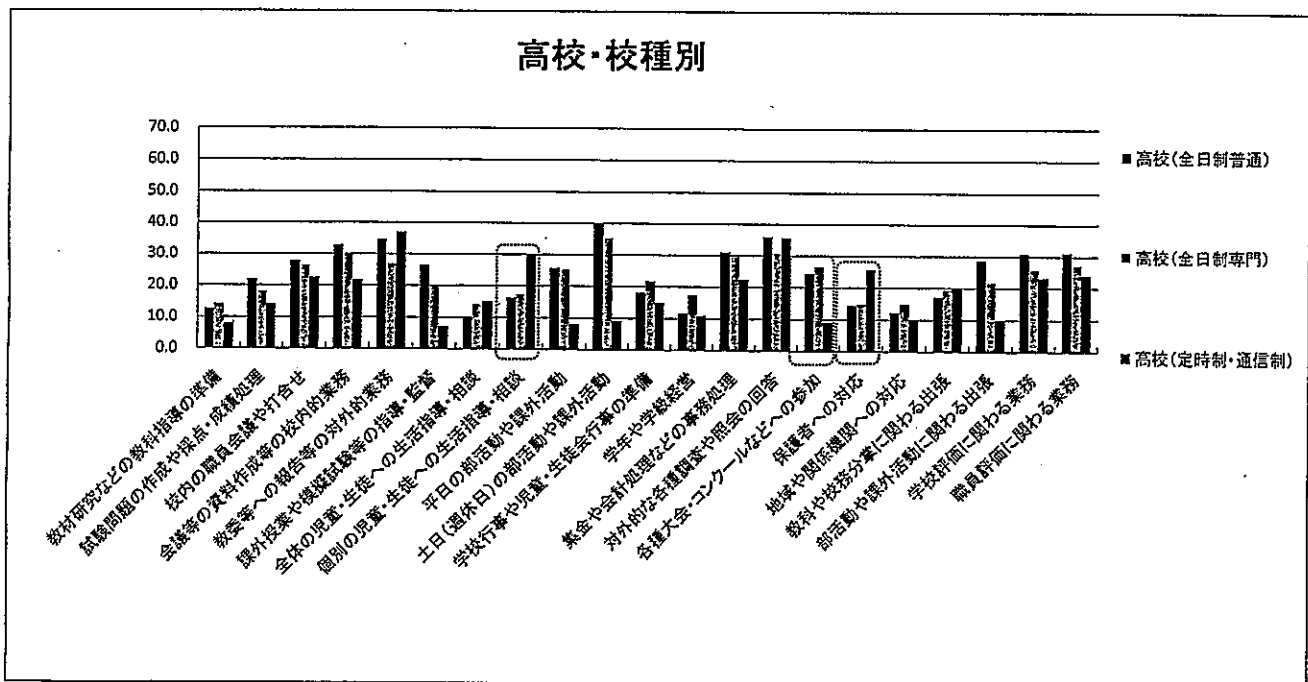
○仙塩地区は「教育委員会への報告書作成等の対外的業務」「職員会議や打合せ資料作成等の校内的業務」の割合が最も高い。  
 ○仙塩地区以外は「土日(週休日)の部活動や課外活動」「対外的な各種調査や照会の回答」の割合が最も高い。  
 ○地区間の大きな差は見られない。

#### IV 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



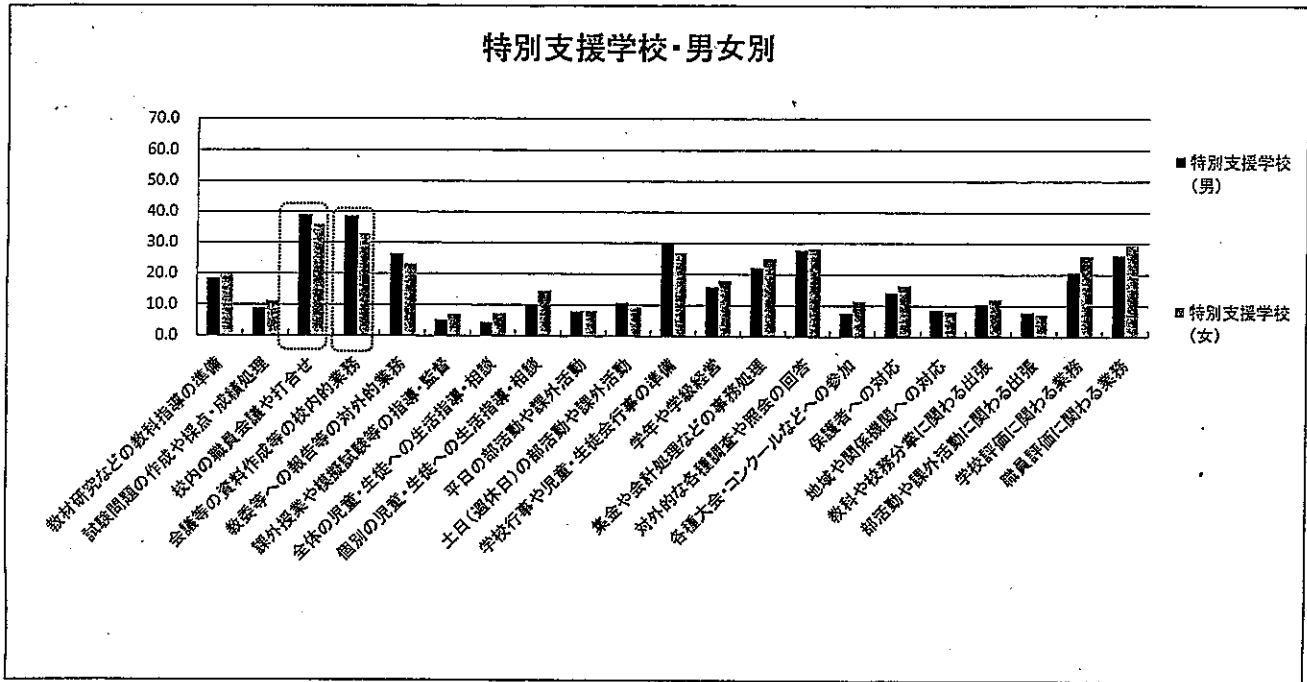
○20代、30代は「土日の部活動や課外活動」、40代、50代は「対外的な各種調査や照会の回答」の割合が最も高い。  
 ○「集金や会計処理等の事務処理」は若い年代が多忙かつ負担感をより感じている。  
 ○その他の業務については年代間の大きな差は見られない。

#### IV 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



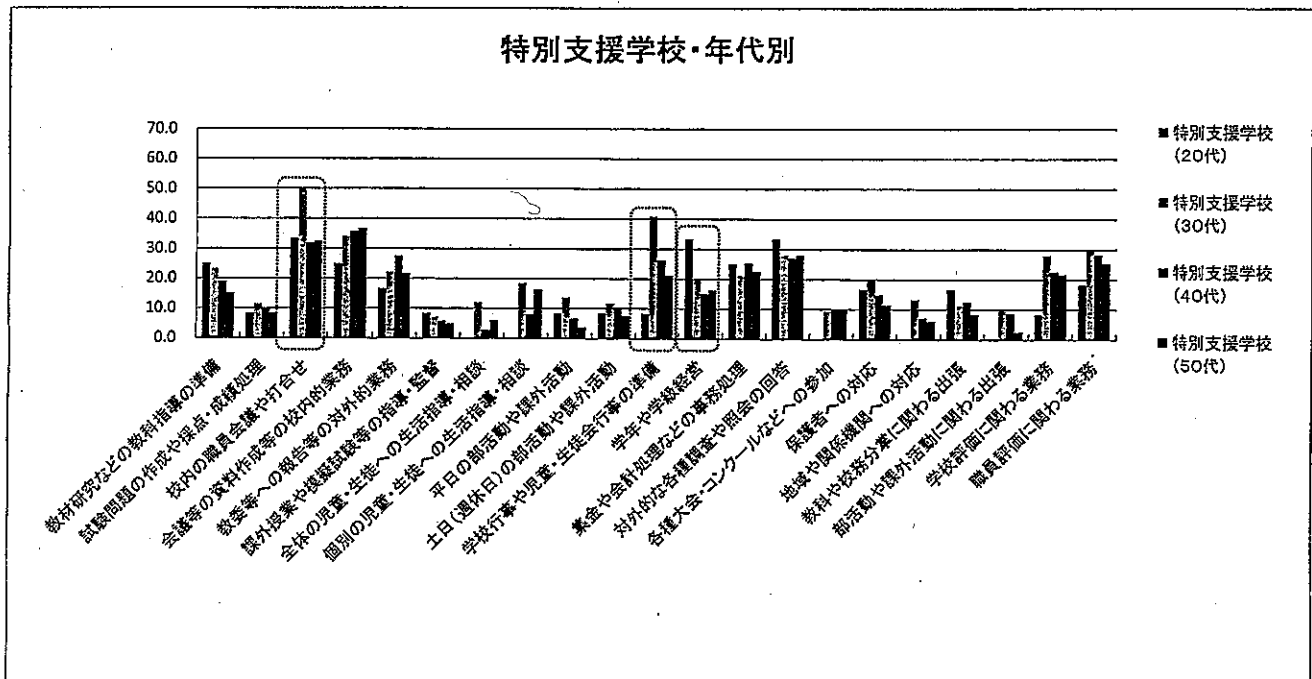
○「各種大会・コンクールなどへの参加」「個別の児童・生徒に対する生活指導・相談」「保護者への対応」において全日制と定時制・通信制の間に大きな差が見られる。

#### Ⅳ 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



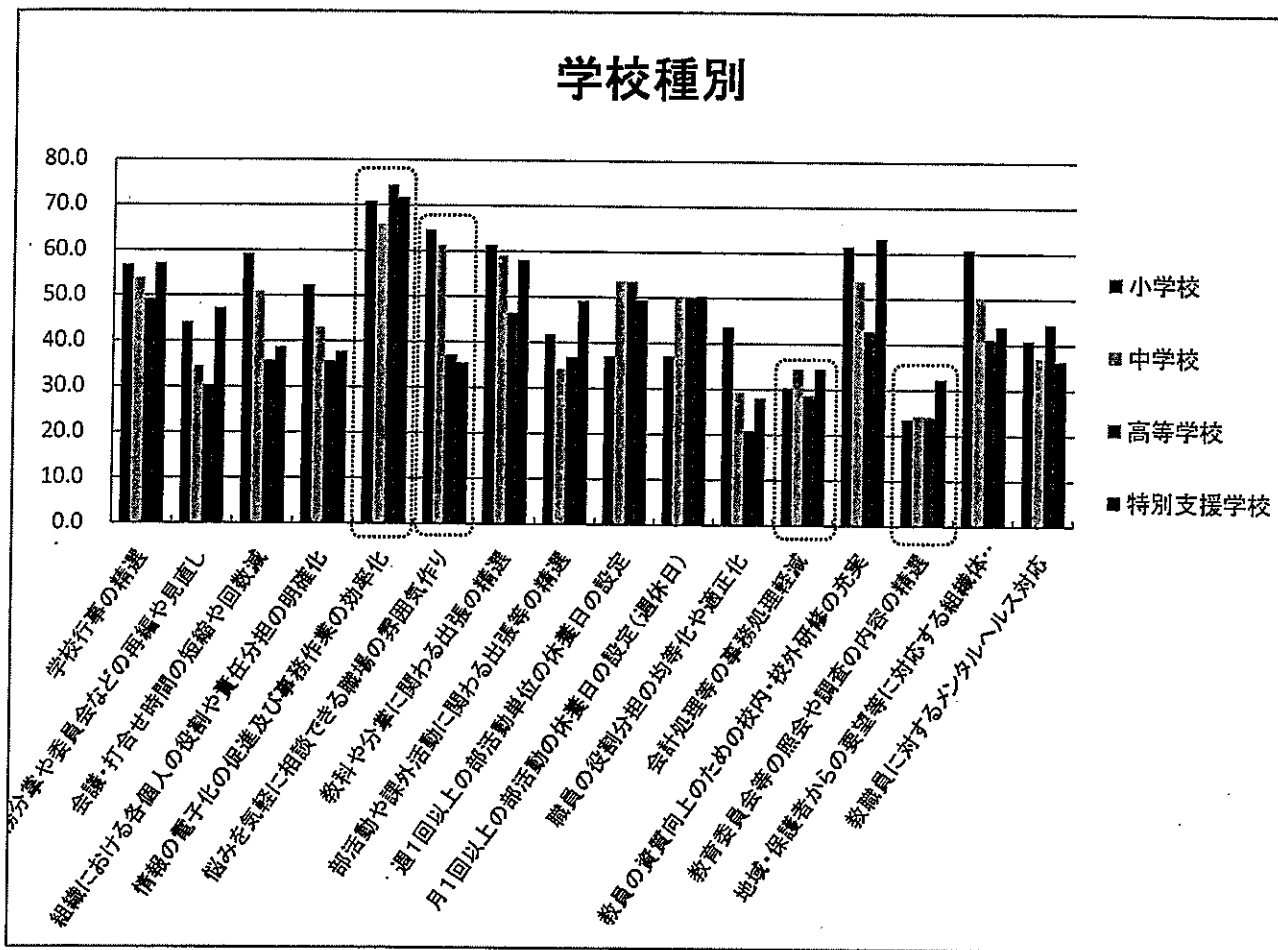
○男女とも「校内の職員会議や打合せ」「職員会議や打合せ資料作成等の校内的業務」の割合が高い。  
 ○男女間に大きな差は見られない。

#### Ⅳ 多忙の原因となっていて、かなり負担感がある業務



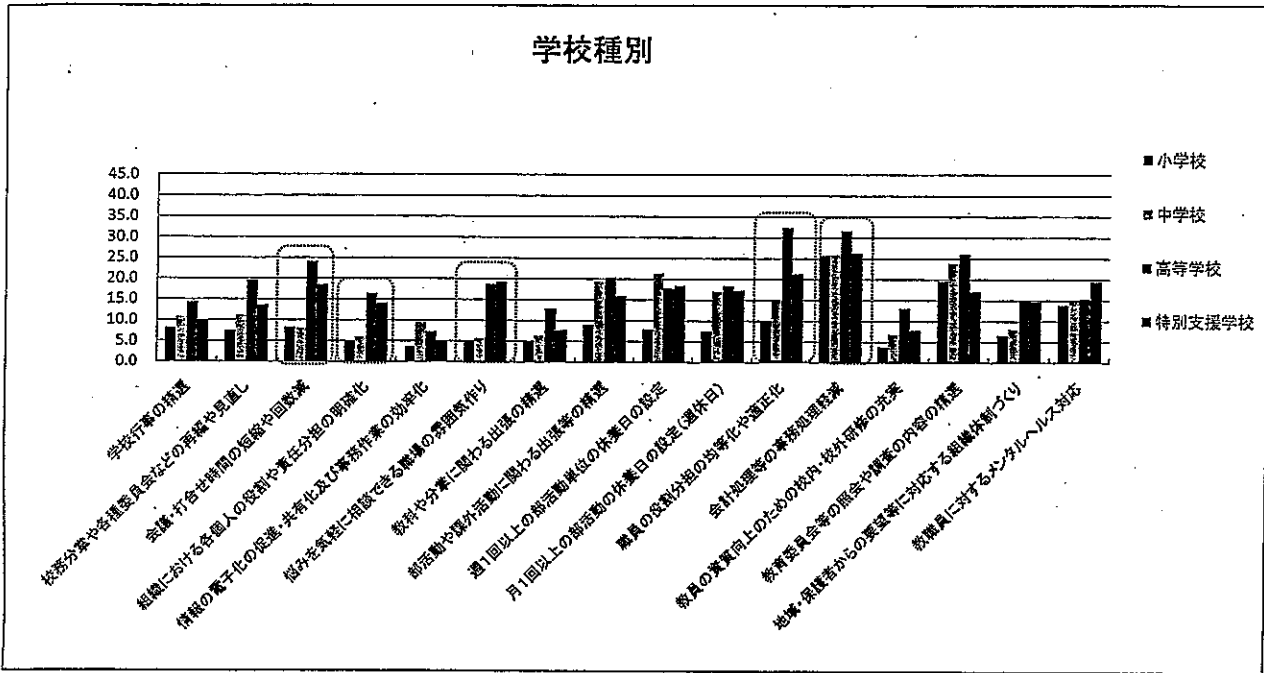
○「学年や学級経営」の20代、「校内の職員会議や打合せ」「学校行事や児童・生徒会行事の準備」の30代が他の年代に比して高い。  
 ○その他、「学校評価に関わる業務」「職員評価に関わる業務」で20代の割合が小さいことを除けば、年代間の大きな差は見られない。

# Ⅶ① ここ数年、改善されたと感じる項目



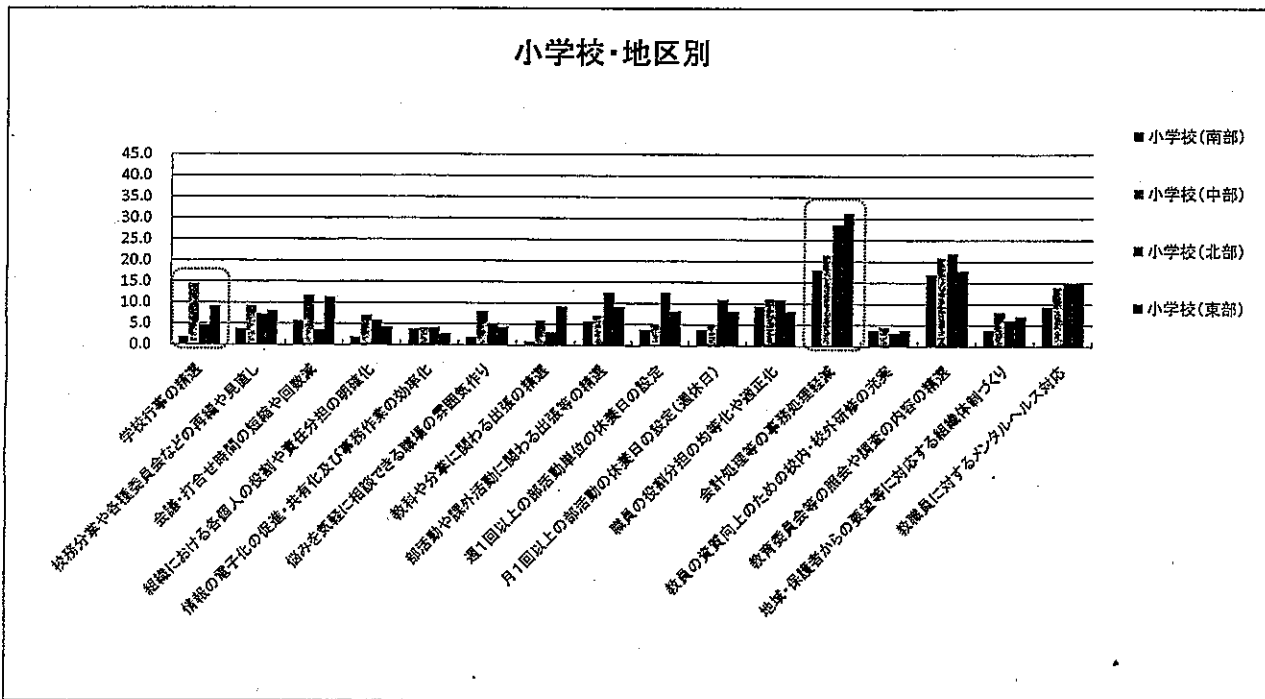
- すべての校種で「情報の電子化の促進や教材や資料・データ等の共有化及び事務作業の効率化」の割合が高い。
- 一方、すべての校種で「教育委員会や他の行政機関による照会や調査の内容の精選」「会計処理等の事務処理軽減」の割合が低い。
- 「仕事の進め方や悩みを気軽に相談できる職場の雰囲気作り」は、小・中学校と高校・特別支援学校との差が大きい。

## Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



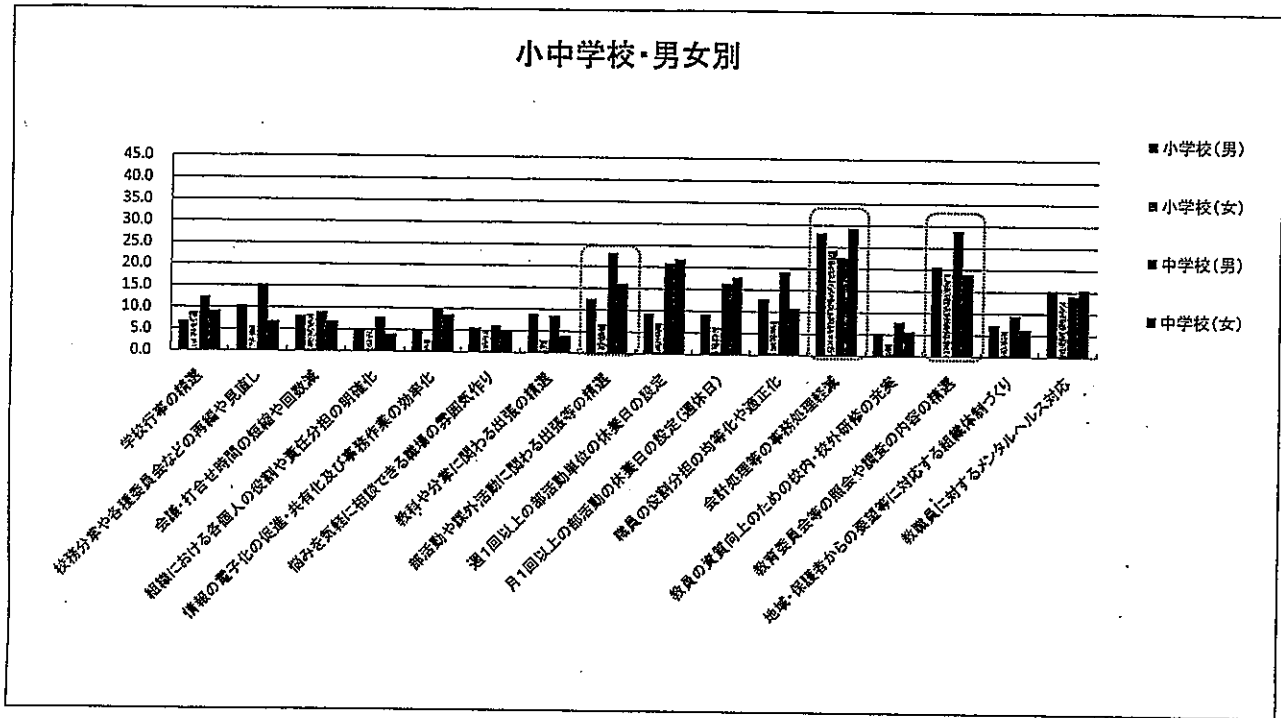
○「会計処理の事務処理」については全校種とも他の項目より割合が高い。  
 ○「役割分担の均等化」について、高校の割合が高く、小学校との差がとても大きい。  
 ○また、「打合せ時間の短縮」「各自の責任分担の明確化」「職場の雰囲気作り」などについて、高校、特別支援が高く小中との差が大きい。

## Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



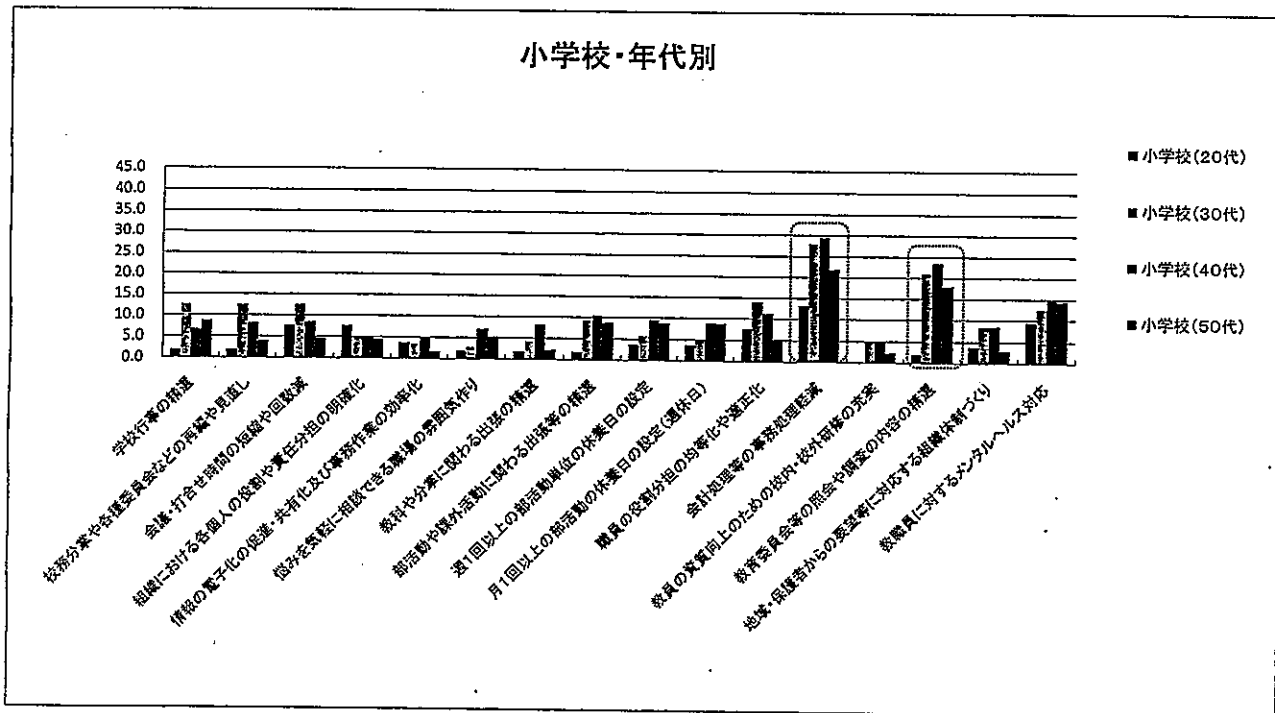
○特に「会計処理等の事務処理軽減」について、北部と東部で割合が高く、南部と比べると差が大きい。  
 ○全体的に割合は低いですがその中でも「学校行事」については中部の割合が他よりも高い。

## VII ここ数年、全く改善されていないと思う項目



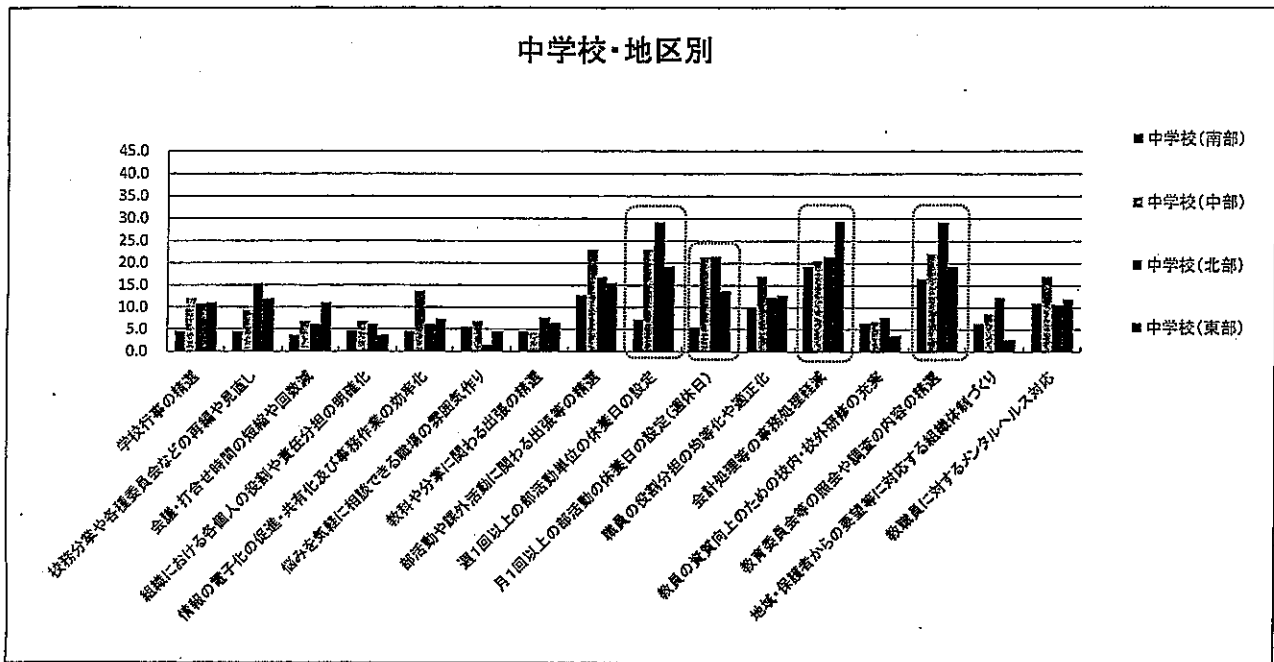
- 小・中男女ともに「会計処理等の事務処理軽減」について割合が高い。
- 部活関連の項目は中学校の割合が高いが、特に「出張等の精選」については中学校の男性が高い。
- 「調査内容の精選」については中学校の男性が他に比べて割合が高い。

## VII ここ数年、全く改善されていないと思う項目



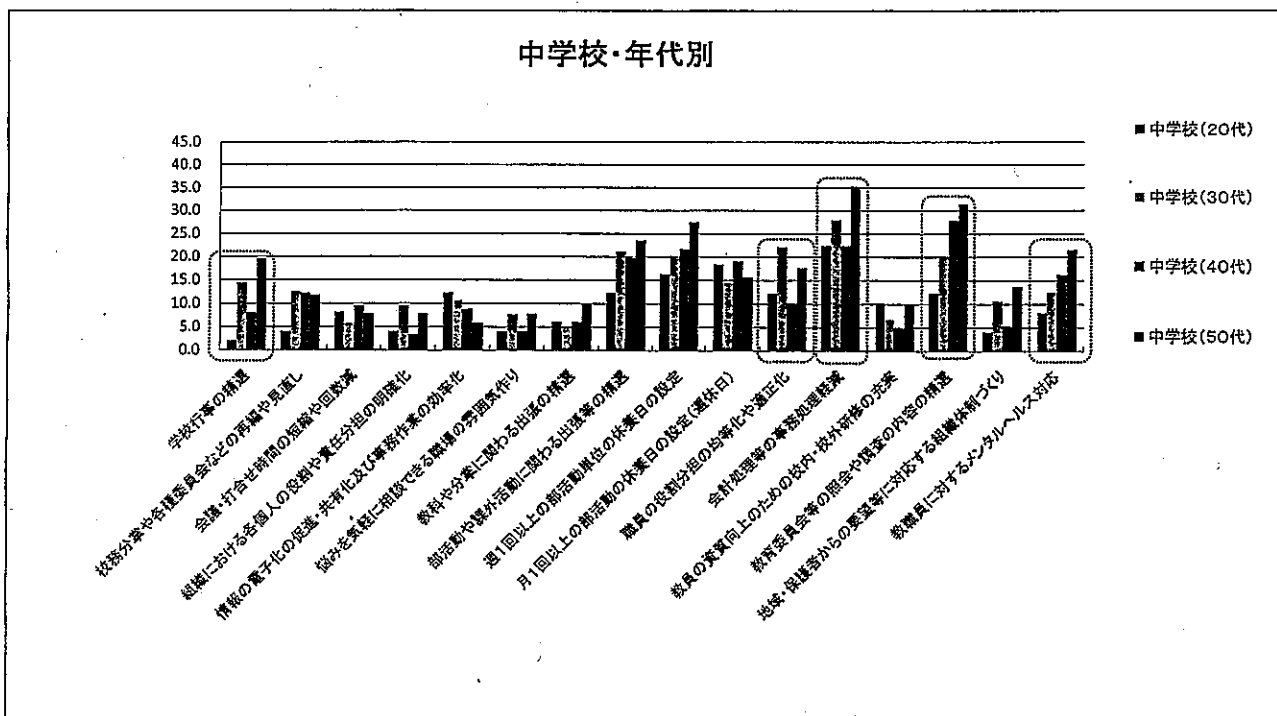
- 「会計処理等の事務処理の軽減」と「調査内容の精選」について30代、40代の割合が高く、20代との差に大きな開きがある。

## Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



○「週1以上の部活休業日の設定」と「月1以上の休養日の設定」についても、中・北部の割合が高く、南部との差が大きい。  
 ○東部は「会計処理等の事務処理軽減」の割合が特に高い。  
 ○また、「調査内容の精選」については北部が高くなっている。

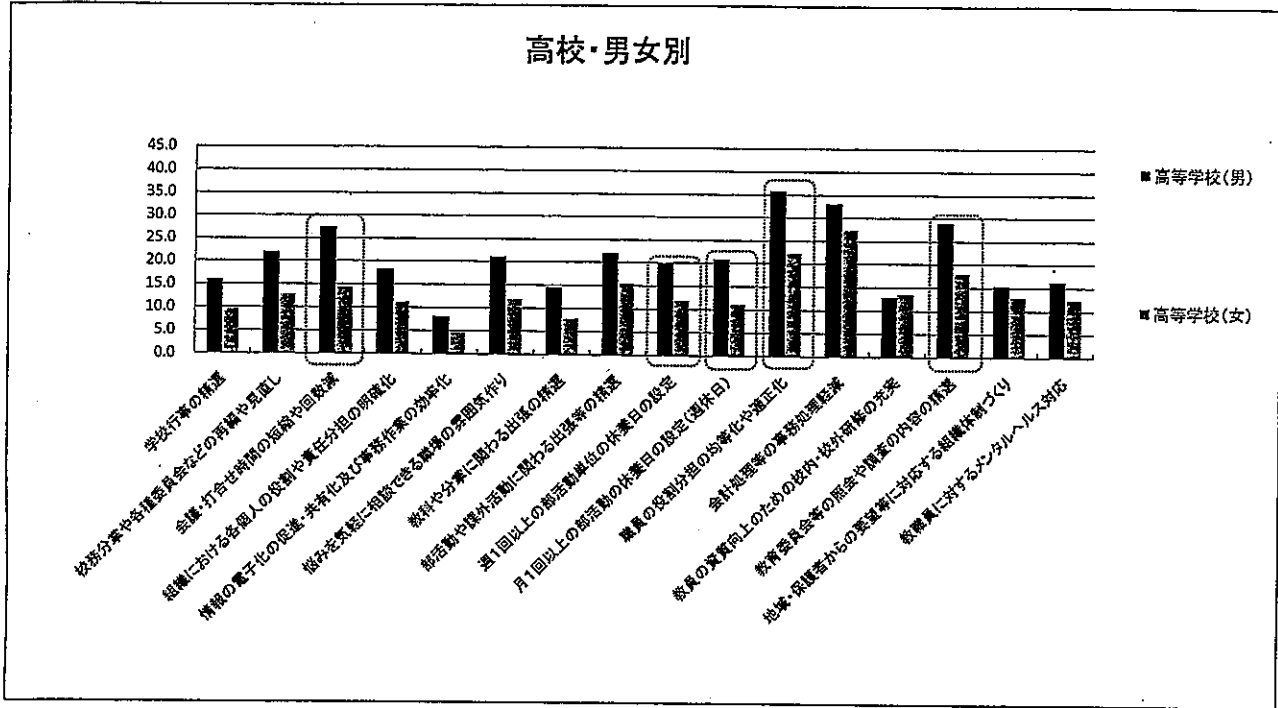
## Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



○「会計処理等の事務処理軽減」「調査内容の精選」「メンタルヘルス」「行事の精選」について、50代の割合が高く、特に20代との差が大きい。  
 ○「役割分担の均等化」については30代の割合が高くなっている。

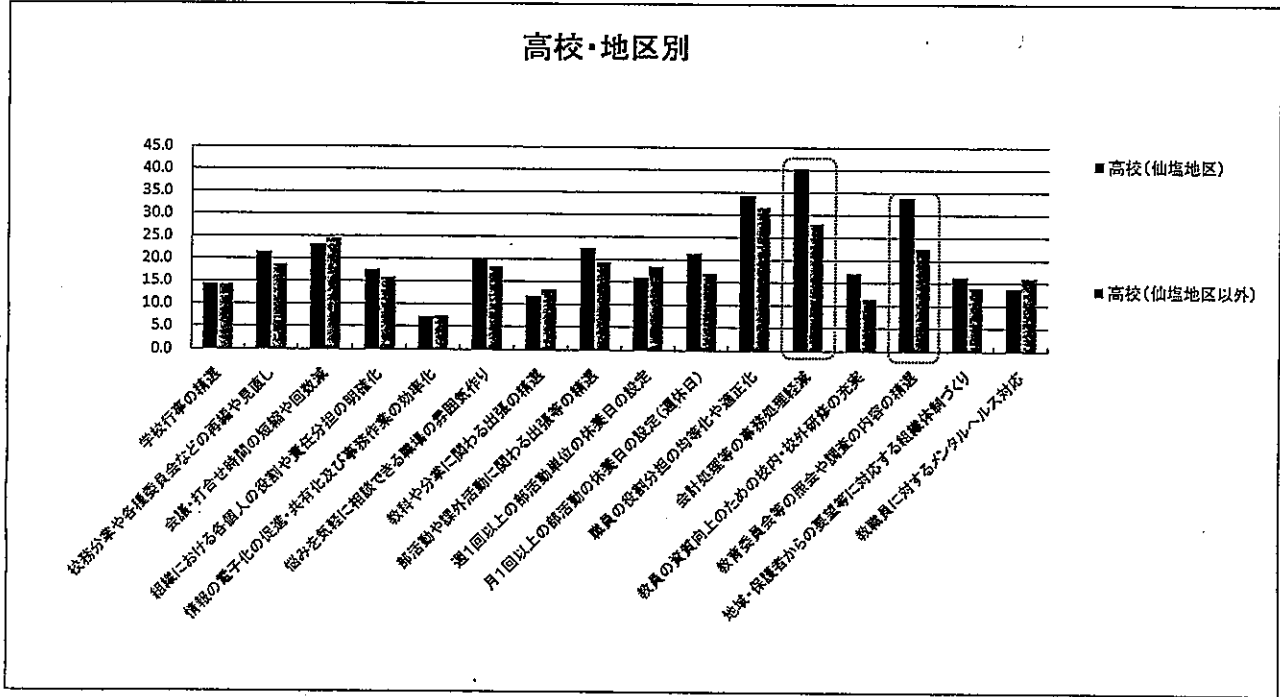


Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



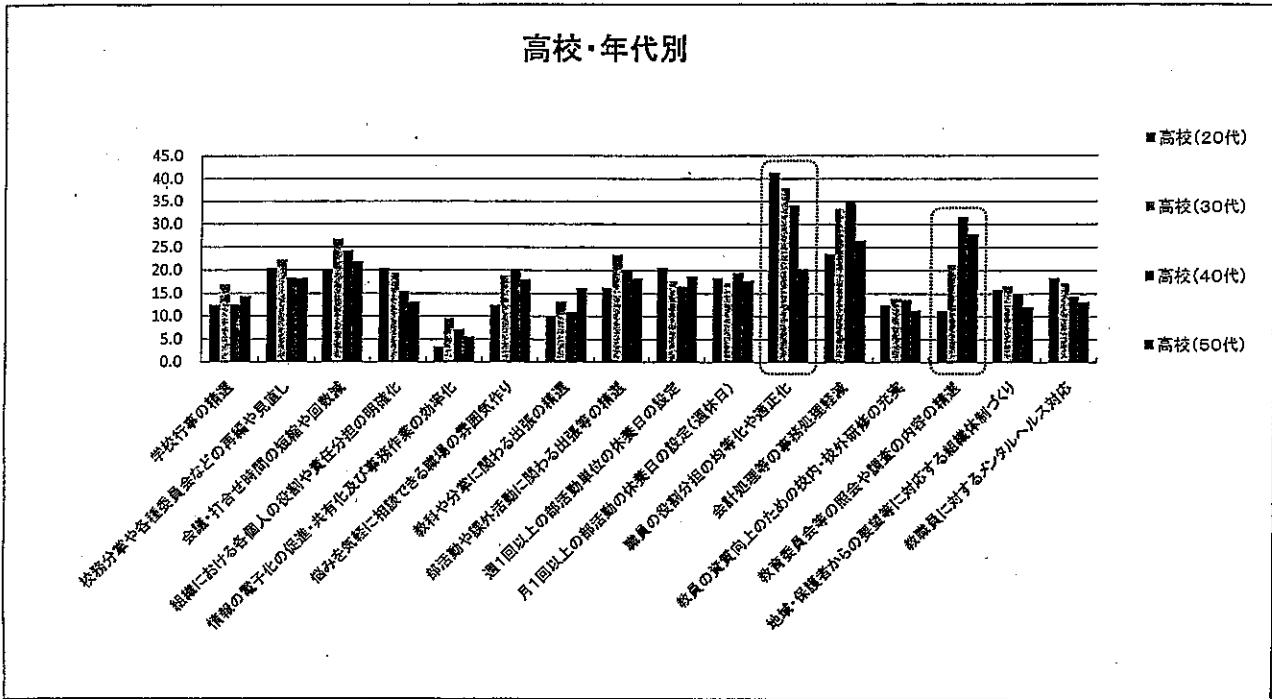
○ほとんどの項目で男性が女性より割合が高いが、特に「会議の短縮」「部活休業日の設定」「役割分担の均等化」「調査内容の精選」についてその差が大きい。

Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



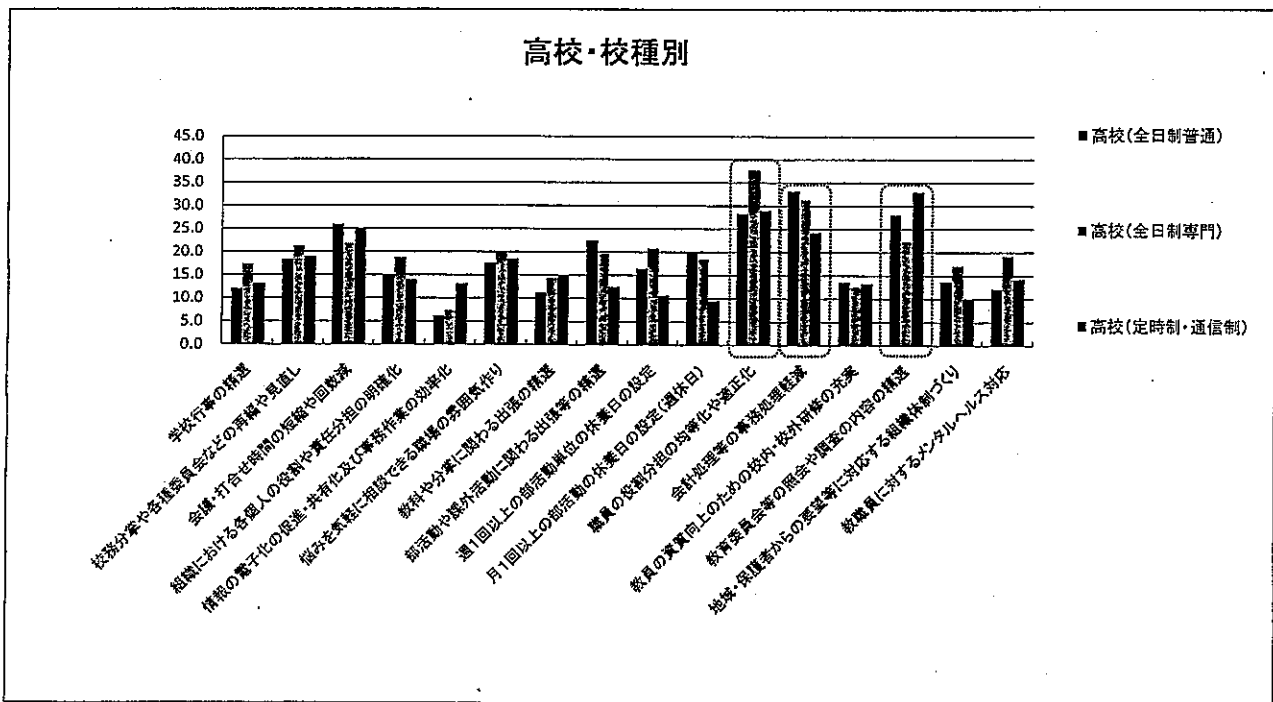
○「会計処理」や「調査内容の精選」について、仙塩地区の方が割合が高い。他は大きな違いは見られない。

Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



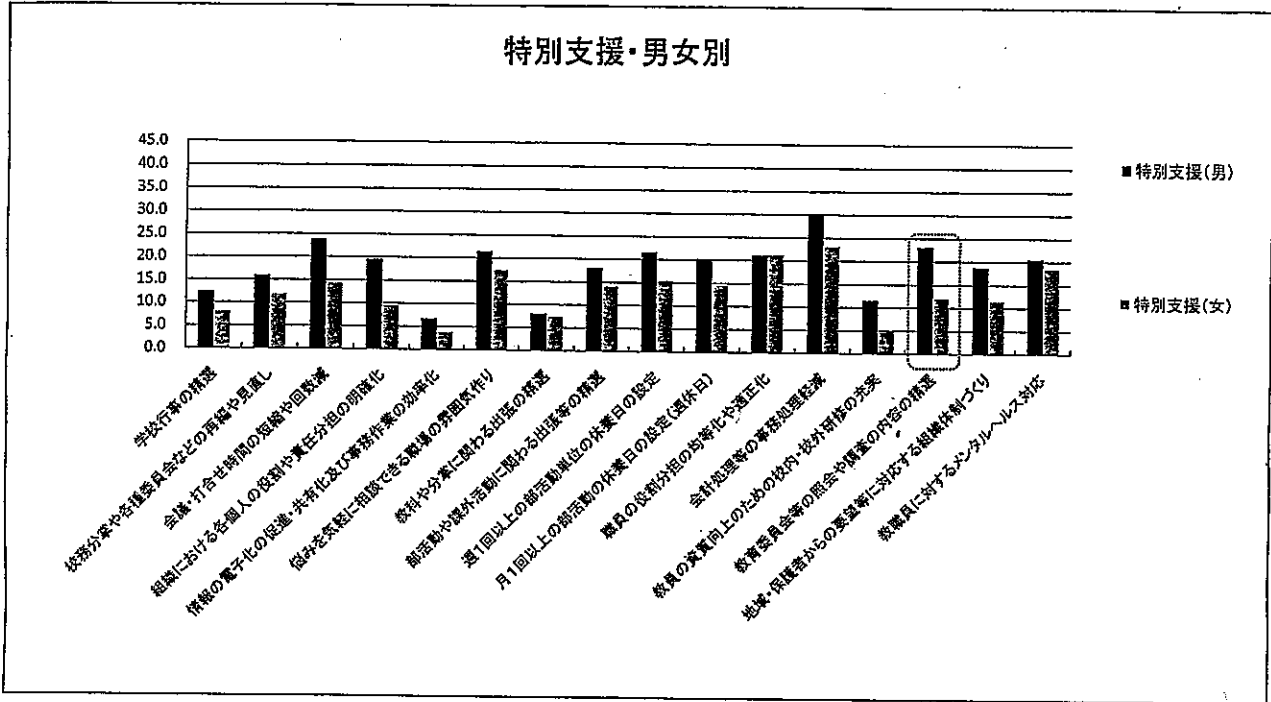
○「役割分担の均等化」については20代と50代を比べると倍の違いが見られる。  
 ○「調査内容の精選」については40代の割合が高く、20代の割合の倍以上になっている。

Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



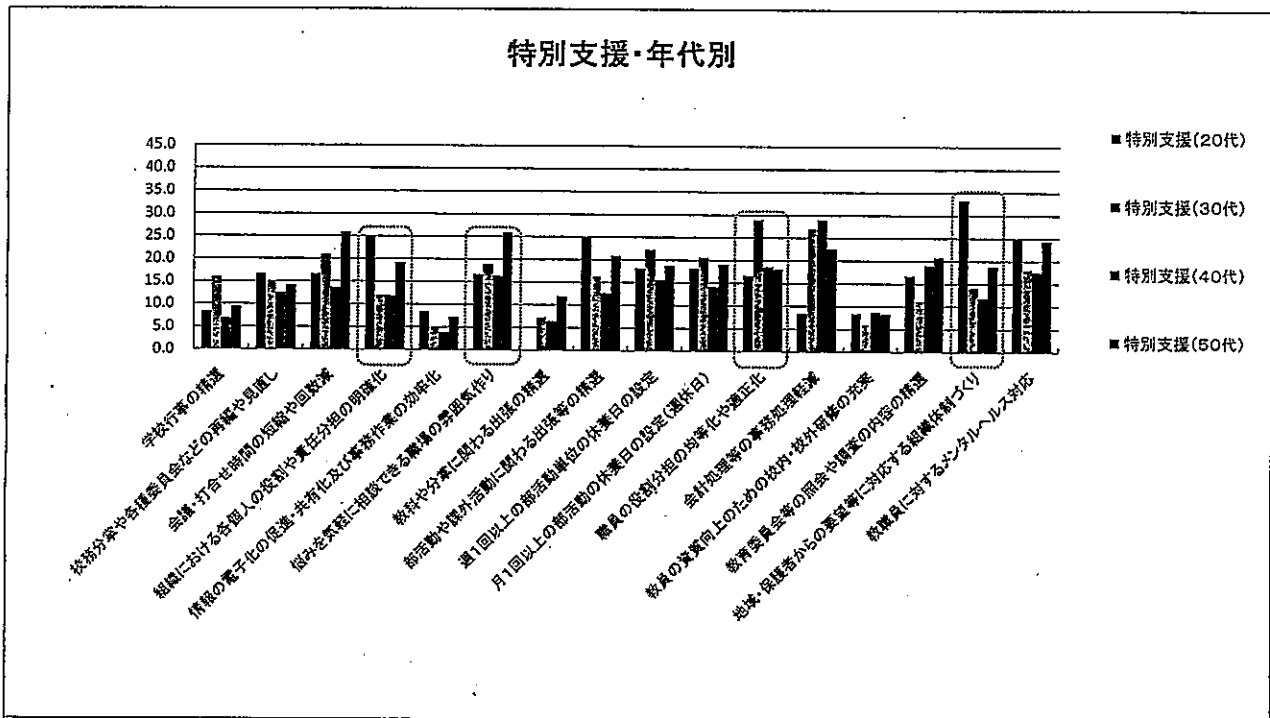
○全日制普通では「会計処理等の事務処理」の割合が最も高い。  
 ○全日制専門では「役割分担の均等化」の割合が最も高い。  
 ○定時制では「調査内容の精選」の割合が最も高い。

## Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



○どの項目も男性の割合が女性のそれを上回っており、特に「調査内容の精選」では男女差が大きい。その他「会議の短縮」「責任分担の明確化」などの項目の割合にも大きな差が見られる。

## Ⅶ ここ数年、全く改善されていないと思う項目



○「外部対応の組織体制作り」について、20代の割合が他の年代に比してかなり高くなっている。「役割や責任分担の明確化」の項目についても同様である。  
○50代では「職場の雰囲気作り」、30代では「役割分担の均等化」についての割合が高い。

## アンケート調査の記述回答で出された主な意見

### 【小中学校教諭等】

#### II 仕事の上で普段特に感じていること

- 授業時間が増え、放課後に行うべき教材研究や学級だよりの作成を家に持ち帰って行わざるを得ない。
- 職員間での十分な打ち合わせや自由な語らいの時間が少なくなっている。
- 教育改革、指導要領や教科書の改訂がたびたびで対応が大変であり、多忙化を招いている。
- 校内LANのメンテナンスや公式HPの作成等は教員の業務としては大変負担。外部に依頼した方が効果的。
- 校務外の事務局としての仕事があり、その関係の会計処理等で多忙を感じる。
- 電話を使って生徒指導をすることが多いが、使える回線が少ないため、連絡が遅くなり、あせりを感じる。
- 個別の児童に対する教科指導、生活指導が困難で限界があるが、特別支援教育の推進で改善できる面もある。
- 諸表簿の記入が煩雑である。
- 教員を増やすことで、かなりの部分が改善される。
- スポーツ経験がほとんどない者が部活動での技術的指導は難しい。時間的、精神的にも負担を感じる。
- 分掌も量も特定の職員に偏っていると強く感じる。
- 行政が時間外勤務手当を支給され、時間に見合った補償があるのに、教員は一律なのに疑問を感じる。
- 教委等の調査、学校関係からの配布物等も年々増加の傾向。教育事務所等で必要ないものは止めてほしい。
- 年齢的に後輩を育成する年代になり、若い世代をどう育てるか、どう接していくか考えることが多い。
- 30人学級の実現と教員数の増加を希望したい。運営が円滑になると思われる。
- 学校現場の声が行政（教育委員会の仕事）に反映されていない。

#### V 勤務時間外(平日・土日)の仕事に関すること

- 勤務時間外に行う仕事
  - ・指定事業や教科の大会にかかわる仕事 ・アンケートや調査の報告にかかわる仕事 ・職員クラブで決定した校舎の清掃 ・スポーツ振興センターの事務処理 ・アンケートや調査の報告にかかわる仕事
  - ・学級の仕事 ・通信表の作成
- 報告書等の準備や作成に多くの時間をとられる。また短い期日内での提出を求められる。
- 土曜日の授業の復活は無理だろうか。そのことにより教師の仕事の負担が多少なりとも軽減できると感じる。
- 自宅に持ち帰ってやるのが当たり前のような雰囲気何とかしてほしい。

#### VI. 忙しい中でも、比較的負担感を持たないで仕事ができる場合

- 生徒に対する直接の学習指導、生徒指導については負担感をあまり持たない。
- 教師自身も児童も共に楽しく活動することでできれば負担は自然に感じられなくなると思う。
- 多忙になっている中で、給与まで減らされると負担感は倍増する。

### 【高等学校教諭等】

#### II 仕事の上で普段特に感じていること

- 新しい取り組みが始まれば、1つは消えていかなければ仕事量が増加するのみである。
- 授業の持ち時間数を少なくすること、クラスの定員を減らすことが必要である。
- 免許更新制度は以前からあった研修を精選、改善すれば十分である。個人での経済的負担の解消は不可欠。
- 各分掌において仕事量の偏りがまだある。「分散化」できないか。
- 教員側も忙しさの中で、生徒にやらせるべき、考えさせるべきことを教えられず、教員主導になっている。
- 役割分担を公平にすることは大切だが、分掌における適正な人員配置が必要。
- 教員組織において担任、副担任を問わずHRを2人で見ていくという意識が大切。
- 校内外への報告書作成などの業務、各種調査への回答などの業務が、年々増加していると強く感じる。
- 職員評価の目標設定は数値目標が立てやすい目標になりがち。学校目標等はそもそも数値検証になじまない。
- 心を病んでいる同僚が職場に何人かいる。生徒、保護者等の批判も強くなっておりその対応に苦慮する。

- 以前は時間内にこなせたことが処理ができなくなっている自分に不安を感じている。
- 新しい行事が後から加わり以前よりも多忙。現状で十分であるという意見は職員会議において無視される。
- 教科の教育研究会も無くしていいのではないか。
- コンピュータに疎い、指導力に欠ける教諭の仕事の補助をしなければならず、仕事ができる教諭の負担が大きい。
- 権利ばかりを主張して、教科指導、生活指導、事務処理等をやらない教員が多すぎる。
- 仕事を進めていく上で、気軽に同僚に相談ができるような雰囲気作りや談話室等の設備が必要。
- 自分の教員としての資質や与えられた職責を果たしているのか疑問に感じる。
- 各種の健康診断の結果が気になる。
- 会議の内容と長さが合っていない。出された書類を読むだけの会議は無駄。
- 新任者への共通理解等がなされていない。
- 学校の実状を考慮した職員の配置を希望する。特に生徒指導に苦慮している学校には配慮して欲しい。
- 資格取得のための何らかの方法を充実させてほしい。仕事をするうえで教育職としての育成を考えてほしい。
- 実習助手は全生徒に関わる仕事ともいえるため、自分に対して厳しく考えられるようでありたい。
- 仕事を頼んだり、ものを相談したりしやすくないのが、疲れの原因になっている。
- 部活動オンリーの教諭が多すぎる。そのため仕事に偏りがある。
- モラル意識の低い教員が増えてきている。(服装や行動)
- 複数持っている校務分掌の仕事が短期間に集中し、授業に集中できなくなることがある。
- 年齢、性別、バランスのよい学校であれば、もっと仕事がバランスよく配置されるのかと思う。
- 教科指導の他、分科会事務局、コンテスト事務局等が多数回ってきて、その負担が膨大である。
- 管理職が事なかれ主義である。
- 自分だけが大変だと周りを見ずに考えてしまう教員が多く、組織としてまとまって事をなすことが難しい。
- 異動の際、校務や勤務地に関し、希望が通る者と通らない者とで差が大きい。
- 新任や初任者に対し、安易に前任者の校務を引き継がせたり、若いというだけで負担を強いられることもある。
- 生徒の成績評価が曖昧で、かなりの時間を必要としているわりに達成感、成就感が得られない。
- 小規模校は一人当たりの校務量が多くなる。学校の再編を行い、大規模で職員数が多い学校を作るべき。
- 管理職の理解・知識が十分ではなく、自分なりの研修と判断によって業務を進めている。

## V 勤務時間外(平日・土日)の仕事に関すること

- 部活動の大会の振替休日(土日分)が実質ほとんど取れない状況である。
- 対外的組織の運営や仕事を負うものに目を向けてほしい。
- 週休日については部活動休養日を設ける前に、課外授業や模擬試験の回数を制限するべきではないか。
- 勤務時間外の仕事は部活顧問をしていると行わざるを得ない状況なので、今以上に手当をつけてほしい。
- 機械的な部活動の割り当ては問題がある。
- 能力や資質にもよるが勤務時間内に仕事を終わらせることは、現在の自分の担当・役割分担からは不可能。
- 家庭が崩壊寸前。4月から休めた日はほとんどなく、本当に心身共に疲労している。
- 設置が義務づけられている委員会ほど形骸化し、負担感の大きいものが多い。
- 一律、休部日などを設ける必要がある。
- 教員免許更新講習が、土日に入っていることが多く、多忙感を増長させている一因となっている。
- 運動部の大会の精進が必要である。団体、インターハイの廃止等を提起すべき。
- 勤務時間外の勤務への補償がもっときちんと整備されていけば考え方も違ってくると思う。
- 年々増加している事務作業等の対外的ものを改善して欲しい。
- 土日は唯一、部活動に専念できる日であるが調査報告の書類や会議資料作成、採点業務等に時間を割かれる。
- 授業の中での小テストや添削などは持ち帰り平均1～2時間ぐらい使わないと間に合わない。
- 授業外の行事やイベントが多すぎる。又、それに伴った事務処理の量が多い。
- 進学課外の準備、指導に膨大な時間が費やされる。
- 学校の職員だからといって競技団体の事務局を強いられている。(勤務外での仕事が多い)

## VI. 忙しい中でも、比較的負担感を持たないで仕事ができる場合

- 教員の仕事自体には当然やりがいを持ってあたり、負担感を持つことも少ない。
- 人事異動によって、専門性(教科、部活動指導等)への配慮され、やり甲斐が感じられたとき。
- 授業のコマが少ない日。

- 職員の協力態勢ができていない場合。
- 生徒との対話、指導については時間がかかっても負担感は少ない。
- 自宅からの通勤時間が短く、そんなことに時間を割かれずにぎりぎりまで仕事ができる場合。
- 共通理解があり、協力が得られる場合。
- 年次計画など期限が明瞭で事前にその課題や職務に解決する時間的余裕がある場合。(突発的な仕事が多い)
- 生徒が作業などの内容を理解し、自ら行動してくれたとき。
- 主任や部長が指示が必要と考え、明確な指示がある場合。
- これまでの経験や能力が適正に評価されてそれを活かせる仕事の場合。
- 希望した仕事の場合や自分が好きでやれる仕事。(興味・関心が持てること)
- 自分が尽力することが組織に貢献するものであることが実感できるとき。
- 生徒の成長が実感できるような場面に会おうと多忙を極めるときでもストレスは感じない。
- 「学校のやり方」がはっきりわかっているならば、仕事は楽にやれる。わかりやすいマニュアルがあればと思う。
- 本当に必要なことなのかを疑いながらの仕事は大変疲労を感じる。
- 授業評価アンケートは廃止又は簡素化してほしい(定期考査の採点と同等の時間が集約にかかった。)
- 「メンタルヘルス」に関して、職員、生徒、保護者、それぞれ、相談できる時間の確保をお願いしたい。
- やり甲斐のある仕事でも多忙になるとやり甲斐を感じるができなくなる。
- 部活動は、結果だけでなく、日頃の練習や個々の負担をもっと多くの人に理解してもらいたい。
- 県高体連のある専門部の委員長を担当しているが、学科、教科に対して負担をかけているような気になる。
- やり甲斐やその仕事に対する意欲といったことの中で、待遇が改善されると解決できるものも多数ある。

## 【特別支援学校教諭等】

### II 仕事の上で普段特に感じていること

- 規模が大きく、生徒の障害の程度の差も大きいのに教員の数が実質少なく、手が回らない状態である。
- 障害の重い生徒からの攻撃も多く、恐怖、怪我などが常にあり、心身共に疲労状態に陥ることがある。
- 忙しくてお互いに指示伝達がうまく図れず、それが又、多忙を招くという悪循環を感じる。
- 代休日業務を土日出勤で補っているわけではないので授業時数の確保の点からもかなり問題である。
- 部活動担当も一部の職員に負担が偏っている。土日の活動くらいは担当を決めて分担していくシステムを望む。
- 会議、研修、行事等、もう少しその学部毎にふさわしいものを精選する必要がまだまだある。
- 若い世代あるいは転動されてきた先生方の力を伸ばせるような配慮ができる職場作りが大切だと思う。
- 理不尽な保護者等への対応が必要な場合、一人だけでなく、チームを作って対応できるかどうか不安。
- 学校がますます管理的になり、仕事をするうえでとても窮屈な思いをすることがしばしばである。
- 管理職には子ども、教師、現場の実態をよく見て職員の意見を聞いて欲しいと強く思う。
- 空き時間は自由時間と思っている人も見られる。職務規律を守れる職場作りを望む。
- 専門性を無視した人事異動による教科内業務の特定教員への集中が見られる。
- モラルの低い教員がいることによる生徒・保護者への影響とそれらによる業務のしわ寄せがある。
- 教諭は自分の担当授業を責任をもって計画し実行してほしい。
- 責任をとれる立場ではないのに重責を感じる仕事が多すぎる。(生徒との関わり、親への対応等)

### V 勤務時間外(平日・土日)の仕事に関すること

- 家に仕事を持ち帰りにく状況(情報管理)にもかかわらず、勤務時間内ではなかなか終わらない。
- 生徒を帰しても次々会議、打合せ、研修が入り、時間内に授業準備、支援計画等の作成等ができない。
- 実習の準備となると、平日夜、休日等にも買い物などに時間を割かれることが多い。
- 研究・校内で一律に個人研究または共同研究した結果を提出することになっているが、かなり負担感がある。
- 指導主事訪問では綿密な指導案を作成し、準備にかなりの時間を割いている。多忙かつ負担の原因である。
- 校外からの教育相談への対応や関係諸機関との連携調整に時間が割かれる。
- 新しいことを増やすなら、従来あるものを工夫して減らすことをトップにあるものが意識して行ってほしい。

## VI. 忙しい中でも、比較的負担感を持たないで仕事ができる場合

- 多忙の原因はその時の心理状態や体調によっても違う。職場の環境という要因も大きいと思う。
- 忙しいほど仕事を与えていただいている事には感謝しているが、体の健康を維持できる範囲にしてほしい。
- 授業以外の業務分担に不公平さを感じる。その実態を正確に把握すべきである。
- 本来我々が仕事上相談したい管理職が支援学校での経験が乏しいと相談しても解決ができず困る。
- 教師は専門性は大事だが、興味ある専門外の体験をすることも大切で、子どもたちの教育のためには有益。
- 危機管理マニュアル（基本となるもの）を県教委で作ってほしい。学校独自では対応に時間がかかりすぎる。

### 【小中学校管理職等】

#### II 仕事の上で普段特に感じていること

- 教材分析や自己の健康管理に費やし、組織の一員として学校経営に参画するよう指導している。
- 授業で勝負する教員の意識を高めたい。
- 性格的にコミュニケーションがとれない教師や自分を振り返る力のない教師が多くなってきている。
- 土日勤務や宿泊行事等の勤務の割り振りで、必ずしも休みがとれない職務の特性に対する社会的理解が低い。
- 生徒指導の課題解決や学力向上に向けた取組に関しても、人的配置が伴わなければ多忙感が増すばかり。
- キャリアの節目になる時期の研修の設定が必要。キャリア・アップのための研修を望む。
- 待遇の改善が進まない。
- 教育予算が年々削減されている。
- 小規模校においても、大規模校と同じ校務分掌で職務を行っている。複数の主任が割り当たり負担が大きい。
- 指導の経験を次の指導や対応にうまく生かすことができない教員が増えている。
- パソコンやプリンターの不具合がしばしば起き、仕事がスムーズに進まない。(設備の老朽化)
- パソコンの扱い方が分からない。教わることに手間と時間がかかる。
- PTA活動や地域の行事が多く、対応に苦慮する時がある。
- 突発的でせっぱ詰まった照会等が多忙の原因ではないか。もう少し余裕のある〆切設定をお願いしたい。
- 旅費システムの見直しをしてほしい。
- 各市町村教委に、教育職から全市町村にパイプ役となる人間を配置すべきと考える。
- 教材研究や教科指導の準備を本来の勤務時間内にほとんどできていない。

### 【高等学校管理職】

#### II 仕事の上で普段特に感じていること

- 土曜日等の活用が当たり前の現状で全てを振替で処理することが難しい。法改正を含めて考えてほしい。
- 部活動の指導での週1回以上、週休日の月1回の休養日の設定が県全体として徹底されていない。
- 大会参加時の顧問の車に同乗することについても全県的統一的在り方を徹底してほしい。
- 多忙感の原因と考えられるものは特に2つ。「顔が見えない仕事」「議論だらけの会議(長時間だとおさら)」
- 自由にものを言える環境作りに苦慮している。
- 日本の教育制度や給与体系の見直し等のいわば教育分野のインフラ・ストラクチャーの大幅な整備が必要である。
- 最大の要因は部活動指導である。「社会教育」への全面的移管を考える必要がある。
- 教職員の多くが県及び地区の教科や部活動の役員であり、各種会議への出張が多く、授業変更に窮している。
- リーダーシップがとれる人材が少ない。
- 教員数が少なく仕事の種類が多い。(業務の精選には限界がある)
- 再編対象校という足枷は教職員にとって極めて大きな負担となっている。
- 小規模校で生徒指導困難校の実情を具体的に検証し対応してほしい。
- 必要のない研究会、研修会が多すぎる。
- 生徒や親の対応で、特に物事に対する価値観や責任感の意識の差に大きな隔たりを感じるが多い。
- 初任研の内容では、年間の分量として、校務とのバランスを考える必要がある。
- 10年研では研修開催時期が7、8月に集中。三者面談や課外等が組まれており、日程調整が厳しい。

## 「学校マネジメント支援に関する調査研究」経過概要

区 分	期 日	主 な 議 題 等
●第1回調査研究会議	平成21年7月29日(水)	○学校マネジメント支援に関する調査研究事業の概要について ○調査研究事業の内容について
〈主幹教諭先進地視察〉	平成21年7月30日(木) 平成21年8月4日(火) 平成21年8月25日(火)	〈埼玉県立特別支援学校2校視察〉 〈埼玉県立高等学校2校視察〉 〈埼玉県公立小中学校3校視察〉
●第2回調査研究会議	平成21年9月2日(水)	○「学校の効率的かつ効果的な組織運営に関するアンケート調査」について ○意見聴取会について
〈アンケート調査〉	平成21年9月7日(月) ～平成21年9月18日(金)	〈アンケート調査の実施〉
●第3回調査研究会議	平成21年10月6日(火)	○「学校の効率的かつ効果的な組織運営に関するアンケート調査」結果について ○意見聴取会の実施について ○主幹教諭アンケートについて
〈教職員課による意見聴取〉	平成21年10月22日(木) ～平成21年10月30日(金)	〈学校訪問による意見聴取〉 意見聴取校(訪問先) 宮戸小, 一迫小, 大河原小 青葉中, みどり台中, 宮中 仙台南高, 岩ヶ崎高, 大河原商高 東松島高, 聴覚支援, 古川支援
●第4回調査研究会議 (意見聴取会)	平成21年11月12日(木)	○意見聴取会 各校種代表5名(小1, 中1, 高2, 特1)に対する意見聴取
●第5回調査研究会議	平成21年12月21日(月)	○今後の学校における業務運営及び組織運営について ○報告書骨子(案)について
〈主幹教諭アンケート〉	平成21年12月24日(木) ～平成22年1月21日(木)	〈平成21年度配置の主幹教諭21名に対するアンケート調査〉
〈教職員団体からの意見聴取〉	平成22年1月13日(水) 平成22年1月18日(月)	〈宮城県教職員組合及び宮城県高等学校教職員組合から意見聴取〉 〈宮城高校教育ネットワークユニオンから意見聴取〉
●第6回調査研究会議	平成22年1月20日(水)	○報告書(案)について
●第7回調査研究会議	平成22年3月18日(木)	○報告書(案)について



## 学校マネジメント支援に関する調査研究会議委員名簿

所 属 ・ 職	氏 名	備 考
教育監兼教育次長	菅原 通悦	委員長
参事兼総務課長	佐藤 純	副委員長
福利課長	菅原 康隆	
教職員課長	後藤 教至	
義務教育課長	竹田 幸正	
特別支援教育室長	菊池 健	
高校教育課長	高橋 仁	
教職員課小中学校人事専門監	太宰 明	
〃 県立学校人事専門監	中川西 剛	
宮城県小学校長会会長	青木 司一	古川第一小学校長
宮城県中学校長会会長	土田 徹郎	古川中学校長
宮城県高等学校長協会会長	北島 博	仙台第一高等学校長

## 学校マネジメント支援に関する調査研究会議設置要綱

### (設置)

第1 公立小中学校及び高等学校並びに特別支援学校（以下「学校」という。）の学校マネジメント支援に関する事項について、総合的・横断的な調査・研究を行うため、「学校マネジメント支援に関する調査研究会議」（以下「調査研究会議」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2 調査研究会議は、次に掲げる事務を所掌するものとする。

- (1) 学校業務の効率的・効果的な在り方に係る調査・研究に関すること。
- (2) 主幹教諭の導入による学校の効率的・効果的な組織運営の促進に係る調査・研究に関すること。
- (3) その他必要な事項に関すること。

### (組織)

第3 調査研究会議は、委員をもって構成し、別表に掲げる職にある者を充てる。

2 調査研究会議に委員長を置き、教育監兼教育次長の職にある者を充てる。

3 委員長は、調査研究会議の事務を統括し、調査研究会議を代表する。

4 調査研究会議に副委員長を置き、副委員長は委員の中から委員長が指名する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

### (会議)

第4 調査研究会議の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、会議に構成員以外の者の出席を求めることができる。

### (報告)

第5 委員長は、必要に応じ、会議の結果を教育長に報告する。

### (庶務)

第6 調査研究会議の庶務は、教育庁教職員課において処理する。

### (その他)

第7 この要綱に定めるもののほか、調査研究会議の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

### 附 則

この要綱は、平成21年7月16日より施行する。

別表

所 属	職	備 考
総務課 福利課 教職員課 義務教育課 特別支援教育室 高校教育課 教職員課 ” 宮城県小学校長会 宮城県中学校長会 宮城県高等学校長協会	教育監兼教育次長 課長 課長 課長 課長 室長 課長 小中学校人事専門監 県立学校人事専門監 会長(代表者) 会長(代表者) 会長(代表者)	委員長

